

Title	東京歯科大学広報 第215号 平成17年09月30日発行
Journal	東京歯科大学広報, (215): -
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/3758">http://hdl.handle.net/10130/3758</a>
Right	



# 東京歯科大学広報

## 中国 第四軍医大学口腔医学院との姉妹校協定締結

平成17年9月2日(金)



姉妹校協定を交わし、記念撮影：平成17年9月2日(金) 第四軍医大学 長楽礼堂

中国 第四軍医大学口腔医学院との姉妹校協定締結ならびに同学院創立70周年記念式典への参加  
平成17年9月2日(金) 中国 陝西省 西安市に所在する第四軍医大学口腔医学院と本学との姉妹校協定が同大学長楽礼堂において締結された。

締結式には、本学から井上 裕理事長、金子 譲学長、薬師寺 仁副学長、町田幸雄名誉教授、上野雅司

法人庶務課長が列席。第四軍医大学からは、陳 祥才校長、趙 欽民口腔医学院院長はじめ約100名が出席した。

始めに陳校長から第四軍医大学を代表して挨拶があり、これを受けて井上理事長から、「日中両国のそれぞれ歴史を有する二つの歯学部が、姉妹校関係を結び、両国の歯科医学・歯科医療

2005年8・9月

本号の主な内容

- ・中国 第四軍医大学口腔医学院との姉妹校協定締結
- ・第37回歯学体夏期部門開催
- ・延世大学校歯科大学との学生交流
- ・科学研究費補助金 平成17年度新規採択課題の要旨

215号

の発展・充実に向かって互いに協力しあうことは、大変意義深いことであり、本日の締結式を契機として、従前に増して友好関係を深めていきたい。」と挨拶された。

つぎに口腔医学院 趙院長からの挨拶に続き、金子学長から、「第四軍医大学口腔医学院と本学とは、従前から人事交流、共同研究などの友好関係を築いてきた。本日ここに姉妹校としての協定を正式に結び、今後更にお互いの研鑽に励みたい。」と挨拶された。

つぎに、陳校長、趙院長、井上理事長、金子学長により協定書への署名が行われ、引き続き記念品の交換、最後に陳校長、井上理事長から、

それぞれ感謝の言葉が述べられ、締結式は約1時間で終了した。

翌日、9月3日(土)午前8時30分から口腔医学院において新病院のオープンセレモニー、9時30分からは同学院の70周年記念式典が長楽大礼堂において、各国からの招待客を含め約1,000名の参加者を得て盛大に挙行された。また、式典第2部の歓迎アトラクションでは同大学の教職員により、プロ顔負けの演技・演舞などが披露された。

全行程を通じ、第四軍医大学口腔医学院を挙げての手厚い歓迎に感謝し、翌9月4日(日)、一行は中国西安空港から帰国の途についた。



姉妹校協定書に調印する両大学代表者：平成17年9月2日(金) 第四軍医大学 長楽礼堂



第四軍医大学 口腔医学院前で記念撮影：平成17年9月2日(金)

### 第37回歯学体夏期部門開催

平成17年8月1日(月)~8月12日(金) 水泳部、堂々の17連覇達成!! 剣道部も連覇!!



水泳部門 前人未到の17連覇達成! 笑顔がはじけた: 平成17年7月31日(日) アクション福岡

総合成績は6位入賞

第37回全日本歯科学学生総合体育大会の夏期部門が8月1日(月)より8月12日(金)まで九州歯科大学の事務主管により福岡県近県を中心に開催さ



剣道部門 歴史的勝利に充実の表情で記念撮影: 平成17年7月31日(日) 九州国際大学

れた。本学からは夏期22部門中18部門に約360名の学生が参加して熱戦を繰り広げ、水泳部門が17連覇を達成、剣道部が2連覇を果たすなど健闘。3年連続の総合6位入賞を果たした。

## 無敵艦隊17連覇!(水泳部)

今大会の水泳部門は、夏期部門の先陣をきって開催された。決戦の舞台となったのは、福岡県立総合プール『アクション福岡』。この施設は、平成2年に開催された「とびうめ国体」を記念して建設されたものであり、プールだけでなく体育館・スポーツ教室さらには宿泊施設まで完備する福岡県を代表する総合スポーツ施設である。

様々な公式行事でも使用されるこの施設で、本学水泳部の若き精鋭達が、歯学体の歴史に残る金字塔を残した。女子200mメドレーリレーを大会新記録で制した他、7種目で1位を獲得、準優勝5種目、3位入賞4種目と堂々たる成績で17連覇を達成した。本部門には、全国の歯学部・歯科大学より22大学総勢314名の参加があり、本学からは27名の学生が参加した。全体からみたら微々たる人数であったが、そうはいつでも本学の誇る「無敵艦隊」!各自が日頃培ってきた力をあますことなく爆発させ、大会の台風の目となり、今年も伝統の強さを見せ付けた。

以下に詳細な成績を紹介する。(は大会新記録)

## 優勝 女子50m背泳ぎ・100m背泳ぎ

野口沙希(6年)

女子200mメドレーリレー 女子200mフリーリレー  
女子400mフリーリレー

野口沙希、丸山友恵(5年)

脇谷暁子(4年)、三科祐美子(4年)

男子400mフリーリレー

江川昌宏(5年)、長谷川大愷(1年)

西村逸郎(2年)、柄慎太郎(2年)

男子800mフリーリレー

江川昌宏、原睦喜(3年)、柄慎太郎、

西村逸郎

## 2位 女子200m個人メドレー 三科祐美子

男子200m自由形 西村逸郎

女子400m自由形 丸山友恵

女子50m平泳ぎ 三科祐美子

女子100m平泳ぎ 徐裕華(3年)

## 3位 男子200m背泳ぎ 菊池恭平(2年)

女子50m自由形 丸山友恵

女子100m背泳ぎ 脇谷暁子

男子400mメドレーリレー

菊池恭平、江川昌宏、西村逸郎、柄慎太郎

## 水泳部主将 三科祐美子さん

「『優勝...東京歯科大学』このアナウンスを聞いた時、今まで張り詰めていた緊張が一気に抜けていきました。優勝できた事に対して、純粹に嬉しいという思いもありましたが、17連覇という任務を果たした安堵感が大きく、これで心置きなく千葉に戻ることができる、と思ったのを覚えています。今までを振り返ってみると、練習期間は4月~7月と短期間ですが、その4ヶ月で1つの目標に向かって、皆で進んでいけたと思います。練習する時は、メニューがきつくても頑張っけて乗り切り、遊ぶ時には思い切り遊ぶ、という“メリハリ”がうまく作れていたと思っています。幹部は思った以上に大変で、思うようにいかない事が多かったのですが、その度に幹部3人で話し合いをし、解決してきました。また、先輩に助けられたり、後輩にも支えられ、無事に幹部を終えることができました。デンタル後に『今年の部活楽しかったです』との後輩からの言葉に、幹部をやった本当に良かったと思いました。この夏の4ヶ月は一生忘れられない思い出になりました。」



水泳部門 タッチした瞬間、次の泳者が勢い良く飛び込む! 思いをつないだリレー:平成17年7月31日(日)アクション福岡

## 剣道部志願の歯学体二連覇!

また一つ、あらたな歴史が刻まれた。予選リーグ初戦、日大松戸歯学部にもさかの引き分けスタートとなったが、その後は危なげなく連勝を重ね、本学剣道部史上初の歯学体二連覇を果たした。歯学体二連覇は第28~30回大会の長崎大学歯学部(3連覇)以来、七年ぶり史上4校目。秋の関東医歯薬獣医科大学剣道大会も2連覇中であり、主要二大会を通算すると前人未踏2年連続秋

夏連覇の4連覇を達成したことになる。なお、個人戦でも1年生の石田圭太君(三段)が優勝、4年生の三條恵介君(三段)が準優勝と東歯大が一位、二位を独占した。これは平成14年の第34回大会で三條祐介君(当時3年生)が優勝、三條恵介君(当時1年生)が準優勝して以来、わずか三年での快挙再現となった。また、三條祐介君(6年生)が優秀選手賞を受賞した。

なお秋の関東医歯薬獣大会は二連覇中であるが、連盟の規定で三連覇すると優勝杯(通常は持ち回り)が当該校に与えられることになっている。

記録によると達成したのは昭和40年～42年の日本歯科大学ただ一校。おそらくは現行の参加40校体制になってからは初の偉業となる優勝杯奪取を目指して熱き戦いは秋へと続く。

#### (決勝戦再現VTR)

決勝の相手は昨年決勝で対戦し、準優勝で大会主管校の九州歯科大学が予想されていたがそれを覆し、予選リーグで対戦した日本歯科大学新潟歯学部であった。悲願の歯学体二連覇までと一つ。試合直前、ミーティングで山根部長以下OBから檄がとんだあと、現役・OB全員がひとつになって肩を組み円陣になる。「いくぞ!」「オオーツ!!」最後のサイキングアップを終え試合開始。わが軍も日歯新潟も、双方予選リーグそのままのオーダーで再度激突となった。二連覇への道、最後の戦いである。

先鋒は核弾頭の石田。ここへきてもその剣さばきは絶好調。相手をまったく寄せつけずドウ、メンの二本勝ちで切り込み隊長としての役割をきっちりと果たした。

次鋒和田。予選リーグでは二本勝ちしていた相手であったが決勝では苦戦。しかしながら引き分けで中堅三條祐介へとつなぐ。三條も予選リーグでは二本勝ちの相手にわずか13秒でメンを先制。しかし二本目が決められず一本勝ちとなる。これが生みの苦しみか...

それでも2-0でついに二連覇まであと一勝! 副将長縄の登場となった。予選リーグでは藤本が対戦し引き分けた相手である。しかし決勝トーナメント二戦二勝の長縄はここでも好調ぶりを発揮。1分54秒にあっさりメンを先制しついにチャンピオンシップポイントを迎える。それが

らわずか45秒、長縄の放ったメンは相手の頭上をしっかりと捉えていた...完璧な二本勝ちで主将みずから優勝を決めた。

最後の大将戦は強敵に三條恵介が引き分けたものの、日歯新潟には一本も許さず3-0の完封。歯学体では昨年引き分けをはさんで通算15連勝、無敗の二連覇で花を添えた。



剣道部門 相手より一歩前へ! 竹刀に勇気を込めた: 平成17年7月31日(日)、九州国際大学

#### 少林寺拳法部 総合準優勝!

少林寺拳法部は近年めきめきと力をつけてきているクラブの一つである。部員数はここ数年コンスタントに増え続けており、女子部員の増加も著しい。

歯学体に関しての成績を今、ひも解いてみると、少林寺拳法部は第1回大会から参加、第2回には初優勝、第11回大会までに優勝1回、準優勝2回、3位入賞7回を果たすなど、まさに名門といった観であった。その後、第25回の3位入賞をのぞくと長らく3位入賞圏内からは遠のいていたが、今大会では、『単独演武の部』での鈴木梓乃さん(3年)の準優勝、『組演武初段の部』での鈴木えりさん(3年)西宮紘子さん(3年)組の準優勝が起爆剤となって、見事総合準優勝を勝ち取った。これは、実に12年ぶりの3位圏内入賞であり、昨年度の5位入賞とあわせて名門復活を予感させ、今後のさらなる飛躍が期待される。

#### 少林寺拳法部主将 鈴木えりさん

「消えかけたと思われた少林寺拳法部が今年デンタルで準優勝をとった。これは、どんな練習にも自ら積極的に取り組んだ部員達の成果であり、的確な指導をして下さった道院長、忙しい時間をさいて来て下さったOBの先生方、そして

体力の限界まで付き合って下さった先輩達2人のお陰だと思ふ。少林寺は、上下左右、最大限に翼を広げ絆を深められる場だと思ふ。今大会を誇りにさらに気合を入れていきたい。合掌。」



少林寺拳法部門 惜しくも準優勝。来年度のリベンジを誓いつつ笑顔でガッツポーズ：平成17年8月2日(火) 鶴見大学体育館

#### 様々なクラブ・学生が健闘！

総合成績には直接的には貢献しないまでも、個人戦では大活躍し、大会を大いに盛り上げたクラブ・学生も多い。ここに一部紹介したい。陸上部門では、増田隆雄君(2年)が男子100mハードルを皮切りに、男子高飛び、男子走り幅跳びの3冠を達成し、見事陸上部門MVPを獲得した。増田君は1年次に参加した際にも大活躍しており、特に走り幅跳びの種目は昨年度とあわせて連続優勝ということになった。他にも陸上部門では女子100mハードルで山崎晴香さん(2年)が優勝を果たし、存在感を示していた。柔道部門は、男子73kg以下級で林宰央君(2年)が優勝。男子無段の部で辻将君(3年)が準優勝、女子個人戦では古林由佳さん(1年)も初出場ながら準優勝した。また、バドミントン部門でも、ダブルスで浦野絢子



サッカー部門 ボールをキープしルックアップ：平成17年8月2日(火) 九州国際大学グラウンド

さん(2年) 安村祐香さん(1年)ペアが準優勝と健闘した。

また、昨年度は成績が振るわなかったクラブも健闘しており、バレー部が22年振りに、ヨット部も2年ぶりに3位圏内に入賞し、サッカー部も4位入賞と昨年度のリベンジを果たした。



バレーボール部門 決戦の前に円陣を組み心を一つにする：平成17年8月1日(月) 北九州市立総合体育館

来年は地元千葉が舞台に！

平成18年度の第38回大会は、日本大学松戸歯学部部の事務主管により、千葉県を中心に開催される。

#### 第37回歯学体総合成績(入賞した大学のみ)

優勝	愛知学院大学歯学部
準優勝	九州歯科大学
3位	朝日大学歯学部
4位	大阪歯科大学
5位	日本大学松戸歯学部
6位	東京歯科大学

#### 第37回歯学体入賞部門

水泳部門	優勝(17年連続24回目)
剣道部門	優勝(2年連続5回目)
少林寺拳法部門	準優勝
バレーボール部門	3位
ヨット部門	3位
サッカー部門	4位
ボウリング部門	5位
硬式野球部門	5位

## 教授就任のご挨拶



市川総合病院  
耳鼻咽喉科  
中島 庸也

本年8月より耳鼻咽喉科教授を拝命しました中島庸也と申します。

私が東京歯科大学市川総合病院に赴任したのは平成9年7月1日でした。当日の朝、稲毛の本校に辞令を受け取りに出向きました。京成の稲毛駅で降り、浅間神社で参拝し、さらに無謀にも歩いて歯科大まで行ってしまったため、学長から辞令を授与される頃には汗びっしょりとなっていたことを今でも忘れられません。それから早8年が過ぎ、9年目に入ったところでこの大役を仰せつかりました。自分の人事に関してはのん気に構えていましたが、教授就任ということは自分の問題だけでなく、教授会はもとより事務方や周囲の方々のご支援、御配慮の賜物と気付きこの場を借りて重ねて御礼申し上げます。

市川総合病院における今後の方針としては、臨床を最重要課題としながらも、教育は学生や大学院生ばかりでなく、臨床現場にいるパラメディカルのスタッフにおいても最新情報の認知も含め広い意味での医学教育を心がけたいと思っております。研究においては現状から純粋な基礎研究は現実的ではないので、より合理的な

臨床研究にしたいと考えております。特に歯科大学という特徴を生かした睡眠時無呼吸症候群(OSAHS)における顎顔面形態の及ぼす影響、そこから導き出せると思われる口腔内装置の適応と効果等につき探ってみるのが有意義と考えられます。最後に最重要の臨床ですが、研究と重複するところですが、OSAHSにおいて総合病院として千葉県初の睡眠学会認定施設を目指します。また内視鏡下鼻内手術による眼窩底骨折の整復やアレルギー性鼻炎の日帰り手術、難治性鼻出血制御の術式を確立させ、さらに集団保育で特に問題となる幼少児の耐性菌による反復性中耳炎の診療、また頭頸部腫瘍におきましては、今後本学のセンター化構想における当科の役割を明確にして、他科との協力体制を築いていく所存であります。

今後共、皆様のご指導のほどよろしくお願いいたします。

### 略 歴

- 昭和55年 3月 東京慈恵会医科大学卒業
- 昭和55年 5月 第69回医師国家試験合格
- 昭和55年 5月 東京慈恵会医科大学研修生
- 昭和57年 5月 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科助手
- 昭和63年 3月 日本耳鼻咽喉科学会専門医(第5478号)
- 昭和63年10月 医学博士の学位受領(東京慈恵会医科大学)
- 平成 5年 4月 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科講師
- 平成 8年 9月 イタリア・ピアツェンツァ病院にて海外研修
- 平成 9年 6月 東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科助教授
- 平成 9年 7月 東京歯科大学市川総合病院耳鼻咽喉科助教授
- 平成 9年 7月 東京歯科大学市川総合病院耳鼻咽喉科部長
- 平成17年 8月 東京歯科大学市川総合病院耳鼻咽喉科教授  
現在に至る

## 助教授就任のご挨拶



市川総合病院  
放射線科  
辰野 聡

この度、教授会のご推挽により、平成17年8月1日付けで放射線科助教授を拝命いたしました。身に余る光栄でありますとともに、身の引き締まる思いがいたします。

現代の医療では、程度の差はあれ、すべての診療科が画像診断によって得られる情報を利用しています。画像診断の進歩は急速で、私が研修医であった頃には想像もできなかった診療機器や技術が続々と医療の現場に導入されてきま

した。MRI、MSCT(多列検出器型CT)、PET、カ  
ラードブラUS、CRなどの単純撮影の電子化、  
PACSによる画像情報配信などなど、です。私は  
これら日進月歩の医療画像技術を十全に活用し、  
多忙をきわめる臨床各科の諸先生方のお役にた  
てるよう全力を尽くす所存です。私の当面の目  
標は、迅速かつ正確な画像診断情報を提供す  
ること(できれば検査当日までに)、血管系・非血  
管系IVRによって低侵襲性治療を実施すること、  
研修医、診療放射線技師の教育を介し、病院全  
体のレベルアップを図ることです。幸い、  
市川病院の放射線科のスタッフは非常に優秀か  
つ意欲的であり、共に当院の放射線診療を一層  
充実したものにしていきたいと考えております。

画像診断医は受け持ち患者を持たず、直接患  
者さんと接する機会は少ないのですが、常に画  
像の向こう側には病に苦しむ人間がいること  
を忘れず、毎日の診療に取り組んでいきたい  
と思っています。

研究の分野では、専門領域である頭頸部、骨  
軟部を中心として研鑽を積む所存であります。  
具体的にはマイクロスコープコイルによる関節  
微細構造の描出、末梢神経障害の画像診断、拡  
散強調画像の臨床応用などを考えています。

微力ではありますが、東京歯科大学、市川総  
合病院の発展に少しでも役立てるよう努力して  
参ります。今後とも皆様のご指導、ご鞭撻をた  
まわりますよう、宜しくお願申し上げます。



市川総合病院

産婦人科

高松 潔

この度、教授会のご推挙により、平成17年8月  
1日付けをもちまして、市川総合病院産婦人科助  
教授を拝命いたしました。身にあまる光栄であ  
ると同時にその責務の重大さを痛感いたして  
おります。

皆様もご存知のとおり、現在、産婦人科診療  
はたいへん厳しい状況におかれています。しか  
し、幸い当科には周産期医学、生殖内分泌学、  
婦人科腫瘍学、女性医学という産婦人科各分野  
の専門医・指導医が揃っており、皆若くかつア  
クティブなメンバーです。他科との連携を大切  
にしなが、診療、教育、研究に邁進できるも  
のと自負しております。今後、診療面では安全  
かつ質の高い医療を提供することはもちろんの  
こと、外来・入院患者さんのアメニティーの向  
上を図るとともに、多様なニーズに応えられる  
ような体制を作ってまいります。既に女性相談  
外来や更年期外来である秋桜外来には多くの患  
者さんに来院していただいておりますし、美肌  
クリニックなどの開設も予定しております。女

性に関する事で何かお困りの節は遠慮なくご  
相談ください。また、教育においてはITメディ  
アを生かした講義・実習を通して、産婦人科の  
実際と歯科診療における産婦人科知識の重要性  
を理解していただくとともに、当院ならではの  
魅力ある研修の一端を担えるように努力してい  
く所存です。さらに研究面では、リプロダクシ  
ョンセンターにおける胚DNAの質と損傷度の評価  
に関する研究を推進するとともに、産婦人科領  
域におけるメンタルヘルスの研究を進めること  
により、女性のQOL向上に寄与したいと思っ  
ております。

当科には大野名誉教授をはじめとする諸先輩  
から受け継いできた生殖医療を中心とした歴史  
と伝統がございます。甚だ微力ではありますが  
スタッフ一同とともに、これらを継承しつつ、  
時代に即した科を築きあげることにより、東京  
歯科大学の発展に貢献したいと考えております。  
今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願  
い申し上げます。



## 学内ニュース

博士(歯学)学位記授与

第543回(平17.9.14)授与

第515回(平15.2.19)合格

三村俊男(薬理)第1550号・乙676号

第531回(平16.7.7)合格

吉村元(口外)第1607号・甲911号

第534回(平16.11.10)合格

小池吉彦(臨検)第1616号・甲917号

第537回(平17.2.16)合格

神庭光司(補綴)第1631号・甲930号

市川総合病院における伝達講習会開催

畠亮市川総合病院院長が講習会等で受講して来た内容について、広く市川総合病院の教職員にも知って欲しいとの主旨により、全職種の職員を対象とした伝達講習会が市川総合病院の講堂において開催された。

平成17年7月13日(水)午後6時から、「個人情報保護法の現状と課題」と題して、平成17年4月より施行された個人情報保護法について、その病院における運用面での問題点と指導内容の変化について話された。

続いて、平成17年8月5日(金)午後6時から、「DPC(包括医療)への当院の対応について」と題して、他病院におけるDPCに対する取り組みの実際と問題点を通して、当病院における現時点での考え方などについて話された。

いずれも各職種から多数の参加者を得て行われ、終了後も質疑応答が行われるなど、有意義な講習会となった。



講演される畠市川総合病院院長：平成17年7月13日(水)市川総合病院講堂

歴代学長・役職者の墓参

例年、夏季期間に行なわれている歴代学長・役職者の墓参は、金子讓学長、永井隆夫事務局長をはじめとする大学職員により下記の日程で執り行われた。

7月29日(金)

血脇守之助 先生 松戸市「八柱霊園」

花澤 鼎 先生 松戸市「八柱霊園」

福島 秀策 先生 松戸市「八柱霊園」

鹿島 俊雄 先生 市川市「市川霊園」

8月2日(火)

奥村 鶴吉 先生 小平市「小平霊園」

杉山 不二 先生 府中市「多磨霊園」

松宮 誠一 先生 府中市「多磨霊園」

8月4日(木)

関根 弘 先生 横浜市「東戸塚霊園」

8月8日(月)

高山 紀齋 先生 杉並区「文殊院」

高木圭二郎 先生 新宿区「真英寺」

8月9日(火)

関根 永滋 先生 栃木県藤岡町「慈福院」



高山紀齋先生の墓参を行う金子学長：平成17年8月8日(月)杉並区「文殊院」

第18回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成17年8月6日(土)7日(日)、千葉校舎実習講義室・セミナー室において、第18回カリキュラム研修ワークショップが開催された。本ワークショップは、平成18年度から必修化される歯科医師臨床研修制度において、厚生労働省により示された「指導歯科医講習会の開催指針」にのっとり、「指導歯

科医講習会」として認定され実施するものである。今回は、本学の若手の専任教育職員を中心とした37名を対象とし、カリキュラム・プランニング、問題点の解決法に関する8つのセッションからなるプログラムが実施された。5グループに分かれ、限られた時間内に討議、発表を行う凝縮された内容のワークショップに参加した受講者からは、「良いカリキュラムのためには、面倒がらずに検討と再検討を繰り返し行うという作業が重要であると感じた」「カリキュラム研修ワークショップの受講については、病院助手や大学院生まで対象を広げたほうが良いのではないか」等の感想が挙げられた。最後に、受講者に修了証書が授与され、2日間の日程を終了した。

本ワークショップを今後も継続して実施することにより教育体制の改革と教育指導のより一層の充実ならびに歯科医師臨床研修における指導歯科医の充実を目指している。



ワークショップでのグループ討議風景：平成17年8月6日(土)、千葉校舎セミナー室

武田友孝助教授FDI/Unilever Award Poster Competitionで受賞

4th International Symposium on Sport Dentistry and Dental Trauma (ISDST)が平成17年8月26日(金)・27日(土)モントリオールで開催された。今回のこの大会は、22日からのFDI Annual World Dental Congress Montreal 2005のプログラムの中で、ジョイントミーティングとして開催された。ISDSTにおいて、スポーツ歯学研究室は依頼講演のSPEAKERとして参加し、FDIに於いては、POSTER PRESENTATIONで日頃の研究成果の一つを発表した。FDIでは、今大会から各国からのPOSTER PRESENTATIONSの中から12題をSelected Posters for the FDI/Unilever Award Competition

の候補として選考し、そしてそれぞれを審査する。診査は、FDI Education Committee, Unilever, Local Organizing Committeeよりの3人の採点者に、内容説明後、質疑応答が行われる形式が取られ、翌日“Six Award in the FDI”が発表される。今回110数題の中から選考された12題の中に、スポーツ歯学研究室からの演題が、その一つに選ばれ、筆頭発表者の武田友孝助教授が演者となり審査を受け、見事日本人第一号として受賞した。受賞した演題は、“Influence of surface temperature of mouthguard material on shock absorption ability”で、これはマウスガードの防御効果をより高めるため、その材質、性状を考慮し、マウスガード材の温度の相違が、衝撃力に影響を及ぼすのではと考え、その温度を変化させ衝撃吸収能の検討を行ったものである。臨床(フィールド)では、口腔内温度を考慮した材料の開発が、よりその防御効果を高める為には必要であるという事を示唆した内容のものである。折りしも、ISDSTが開催されている時に、スポーツ歯科医学という新しい分野からの関連発表で受賞できたことは、その関係者にとって非常に意味ある事と感じられた。



Six Award in the FDIの授賞式での武田助教授(写真中央)：平成17年8月26日(金)、FDI受賞会場

入試ガイダンス開催：体験実習を実施

平成17年8月27日(土)午前10時から千葉校舎において、第4回入試ガイダンスが開催された。夏休みの千葉校舎での開催は初めての試みで、体験実習を新規に導入した。当日は165名の参加者を集め、大変盛況であった。

午前中には、学生副部長の佐藤 亨教授を中心とした歯科補綴学第二講座の協力により、印象採得の体験実習を実施し、続いて佐藤教授によ

る「口腔の美」と題した模擬授業が行われた。午後からは、午前中に作成した石膏模型をプレゼントし、更に河田英司教務副部長から、体験実習の内容を踏まえた「印象材・模型材」についての模擬授業が行われた。最新設備の整った臨床基礎実習室での体験実習、その実習に関連した模擬授業など大学で、学ぶ歯科医学専門科目に関する内容を体験し、参加者からは、「楽しく充実していた」、「より一層入学する意欲が湧いた」などの感想が寄せられた。その後、平成18年度入試についての説明があり、入試科目のポイントについて、高畑悟郎教務副部長から解説があった。続いて、大学の特色・カリキュラム等の紹介、学生生活等についての説明の後、学内見学を行い、希望者には個別相談を実施した。学内見学では、各教室、実習講義室、臨床基礎実習室、解剖標本室、千葉病院などを回り、本学の貴重な標本、充実した設備等を示し、また、本学の無線LAN、CBT用PCなどの情報関係設備・環境については、参加者が実際にPCを操作し、その充実した環境を体験した。また、昼休みには、厚生棟の第1食堂で定食を用意し、学食の味を味わってもらった。

8月6日(土)、9月24日(土)には、水道橋校舎でガイダンスが行われ、それぞれ102名、31名の参加があった。次回は、東歯祭期間中の10月30日(日)午後1時から千葉校舎で開催する予定である。



体験実習で説明する佐藤学生副部長：平成17年8月27日(土)、千葉校舎臨床基礎実習室

#### 水道橋病院教職員研修会開催

平成17年9月12日(月)午後5時30分より、水道橋校舎血脇記念ホールにて「水道橋病院教職員研修会」が開催された。今回は、医療法人社団日吉歯科診療所理事長の熊谷 崇先生を講師にお招きし、

「歯科医療構造改革論 ～真の患者利益を求めて～」と題してご講演いただいた。熊谷先生は、齲蝕の疫学、病因論および治療・予防についての科学「カリオロジー」を日本にいち早く紹介し、歯の喪失を最小限に抑える予防中心の歯科診療の提唱により注目され、日本全国から多数の講演依頼を受けている方である。

講演の中で熊谷先生は、現在までの治療中心の医療においては、歯の喪失を防ぐことは不可能であり、真の患者の利益を求めた予防中心の医療へと、直ちに变化させる必要性があると述べられた。その際には、歯科医師および歯科衛生士が齲蝕や歯周病について十分に理解し、患者と二人三脚で定期的・継続的なメンテナンスを励行することが重要であるとのこと。また、予防歯科診療が定着している欧米の例として、歯科衛生士専用の診療個室や、段階的な向上が明確な口腔写真等のスライドが紹介され、会場から驚きの声が上がった。さらには患者利益を追求した診療内容を向上させ収益も上げるため、まずはスタッフが強い責任感と高いモチベーションを維持する必要があるとのこと。集まった教職員は大いに刺激を受け、大変有意義な研修会となった。



講演される熊谷先生：平成17年9月12日(月)、水道橋校舎血脇記念ホール

#### 武本真治助手研究奨励賞を受賞

平成17年9月15日(木)～16日(金)に長崎・長崎ブリックホールで開催された第46回日本歯科理工学会学術講演会において、歯科理工学講座の武本真治助手が発表した「フッ化物耐食性Ti-Cr合金の開発」が研究奨励賞を受賞した。本研究奨励賞は、新規性、独創性があり、将来の発展に貢献が期待できる研究発表であること、発表内容および方法が論理的で、明解であること、

と位置づけられていて、学術講演会講演集に掲載された抄録および研究発表内容を9名の審査委員の先生を前に5分間で発表し、その後、質疑応答を行うことにより審査される。

研究内容は、齲蝕予防剤に含まれているフッ化物に対する耐食性を保持することができ、かつ、優れた機械的性質を有するチタン合金の開発を目的として行われた。審査後のポスター討論でも、学術講演会に参加されている先生方および企業の方と、基礎的事項から実用化に対して幅広く活発に討論された。今後の歯科臨床への応用も含めたチタン合金開発へのフィードバックが期待される。



ポスター前で討論している武本助手(中央)：平成17年9月15日(木) 長崎ブリックホール

#### 千葉校舎防災訓練実施

平成17年9月20日(火)午後1時30分から千葉校舎において防災訓練が実施された。

今回は、夜間防災訓練、火元責任者の通報訓練、起震車による地震体験訓練の3つの訓練が実施された。

始めに行われた夜間防災訓練は、あらかじめ選出された宿直対象者及び病院勤務者約20名が参加し、夜間に火災が発生したことを想定して、夜間通報訓練、初期消火訓練、患者避難誘導訓練をおこなった。初めて訓練に参加する人がほとんどであり、緊張感のある訓練となった。

続いて行われた火元責任者の通報訓練では、教室幹事、係長、主任等の学内における火元責任者の約40名が参加し、「地震が発生しました。」という訓練放送後、各自、担当地域を点検、被害状況を仮設の防災センターへ報告する訓練を行った。すべての火元責任者から報告があり、訓練参加の意識の高さがうかがえた。

最後に、管理棟玄関脇の空き地で行った千葉市消防局の協力のもと起震車による地震体験訓練では、参加者60名が順番に4名ずつ起震車に乗り込み、震度1の緩やかな揺れから震度7の大震災を想定した強い揺れを体験し、大地震の恐ろしさ、地震発生時の安全確保等について、指導員から説明を受けた。



起震車による地震体験訓練風景：平成17年9月20日(火) 千葉校舎管理棟玄関脇

#### 第215回大学院セミナー開催

平成17年9月21日(水)午後6時より千葉校舎第5教室において、第215回大学院セミナーが開催された。

今回は昭和大学歯学部口腔リハビリテーション科科長高橋浩二助教授を講師にお迎えして「嚥下障害のスクリーニング法 頸部聴診法を中心に」と題する御講演を伺った。頸部聴診法は食塊を嚥下する際に咽頭部で生じる嚥下音ならびに嚥下前後の呼吸音を頸部より聴診し、嚥下音の性状や長さおよび呼吸音の性状や発生するタイミングを聴取して、主に咽頭相における嚥下障害を判定する方法で、非侵襲的に誤嚥や下咽頭部の貯留を判定するスクリーニング法としてベッドサイドで



講演される高橋先生：平成17年9月21日(水)、千葉校舎第5教室

も極めて簡便に行えるため、近年、嚥下障害の診断と治療の臨床の場で広く用いられている。

今回の大学院セミナーでは頸部聴診法をご紹介いただき、また、その判定精度と嚥下時産生音の音響特性を利用した嚥下障害診断法について詳しく御説明いただき、大変有意義な御講演であった。

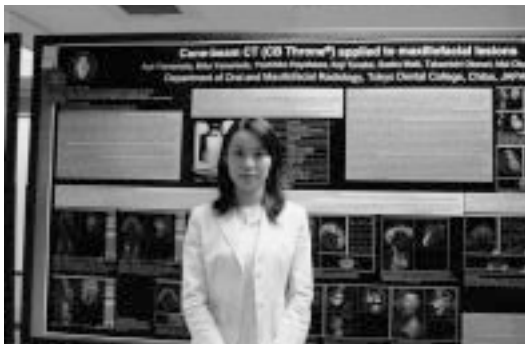
山本あや大学院生、山本実佳助手、第39回アメリカ頭頸部放射線学術大会にて受賞

平成17年9月21日(水)~25日(日)に米国カリフォルニア州サンフランシスコで開催された医学放射線領域の第39回アメリカ頭頸部放射線学会の学術大会(39th Annual Meeting of American Society of Head and Neck Radiology)において、歯科放射線学講座の山本実佳助手と山本あや大学院生がそれぞれ1演題ずつEducational exhibitとして学術発表をおこなった。

その結果、山本あや大学院生が発表した「Cone-beam CT (CB Throne®) applied to maxillofacial lesions」は最高の賞である1st placeに次ぐ「2nd place」を、山本実佳助手の発表した「The Mylohyoid Muscle: Separation of Submandibular and Sublingual Spaces」は「3rd place」を受賞した。今年の同学術大会は例年の3倍ほどの演題数で、受賞対象であったeducational exhibitsは42演題であり、同一施設から2演題の受賞は非常に名誉なことであった。

「Cone-beam CT (CB Throne®) applied to maxillofacial lesions」においては、今年4月より当科にて使用されている歯科用のCone-beam CT (CBCT)であるCB Throne®の有用性を、症例を分析し、紹介した。

「The Mylohyoid Muscle: Separation of Submandibular and Sublingual Spaces」においては、顎舌



受賞した山本あや大学院生：平成17年9月24日(土)  
Renaissance Parc 55 Hotel

骨筋の不連続部について剖出所見と画像所見とを比較し、同不連続部が実際に画像上で検出可能なこと、また不連続部を通る病変を始め、舌下隙から顎下隙への病変の進展の種々の様式が描出可能であることを示した。



受賞した山本実佳助手：平成17年9月24日(土)  
Renaissance Parc 55 Hotel

#### 第45回歯科医学教育セミナー開催

平成17年9月26日(月)午後6時から千葉校舎第1教室において、第45回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は「特色GP・現代GPについて」と題して行われた。

セミナーに先立ち、金子 譲学長より今後の教育体制・方針についての説明があり、附属3病院における患者中心の医療と健全な財政の確立、研究面において大学院の充実と口腔科学研究センターの機能向上、教育面において歯科医学教育センターの設置、無形的資質教育(学風、伝統の伝達)の充実、延世大学を初めとする国際交流の一層の充実を図るということであった。また、文部科学省では競争原理に基づいて、特色ある優れた取組に対して財政支援をすることにより高等教育の活性化を図っており、今回、特色GPおよび現代GPに採択された。これからも本学はこれまでに培ってきた伝統と創造力で全学的に臨むことが肝要であるとのことであった。

続いて、一戸達也教務副部長から特色GPについて説明があった。特色GPとは特色のある優れた教育実績のある大学に対し財政支援されるものである。本学の取組「IT環境でのグローバルバリエーション」は、統合型教育の充実という基本姿勢を基に、構造化されたIT環境を基盤とした6年一貫した学生の総括的評価を行う取組みである。その背景には情報教育の充実、教員のFDの推

進、教室のマルチメディア化、学内CBT、総合学力試験などの充実があり、本取組の有効性は共用試験、国家試験共に全国平均を上回っていることでも証明されている。今後さらに、態度・技能評価への対応、試験問題のフィードバック、ブラッシュアップなどを強化していくとのことであった。

最後に、河田英司教務副部長から現代GPについての説明が行われた。現代GPとは、社会的要請の強い政策課題に関する優れた教育プロジェクトに対して財政支援されるものである。本学の取組「統合型歯科医学教育への新たな展開 - 系統講義コンテンツを進化させた統合的 e-Learning Programの開発 -」は、これまでに取り組んできた各科目のデジタル教育コンテンツの充実、ユビキタスなIT環境の構築、学生のPCスキル向上等を背景に各系統科目のデジタル教育コンテンツを有機的に連携させるe-Learning Programの構築を目指すものである。3年計画で段階的にシステムの構築を行い、平成19年度には病態別・処置別などの統合的歯科医学教育e-Learning Programを完成させる予定である。その企画・立案、実施・管理体制の強化の為、歯科医学教育開発センターを設置することとなったとのことである。当日は160名を超える教職員が集まり、大学の今後に対する関心の高さがうかがえた大変有意義なセミナーとなった。



講演する金子学長：平成17年9月26日(月)、千葉校舎第1教室

#### 平成18年度科学研究費補助金説明会開催

平成17年9月26日(月)午後7時から千葉校舎第1教室において、平成18年度科学研究費補助金説明会が開催された。山田 了研究部長の司会のもと、教務課より研究計画調書の作成要領・変更点等の説明が行われた。主な変更点として、18年度より応募書類の一部が電子申請となる。IDとパス

ワードを取得しWEB上から応募情報を入力、応募書類を作成することとなる。また、書式等の変更もあるので応募者は公募要領等熟読の上、提出していただくよう説明があった。また昨年同様科研費の不正使用に伴う応募資格の停止と無作為抽出による内部監査の実施など科研費の適正な執行に関する取組みについても説明がされた。電子申請化などの変更点もあり、参加者は皆熱心に耳を傾けていた。

#### 市川総合病院における新任教授講演会開催

昨年より、市川総合病院において教授に就任された先生方が、どのような研究、診療を行っているのかを広く市川総合病院の教職員に知って欲しいとの主旨により、全職種を対象とした講演会が企画され、平成17年9月28日(水)市川総合病院の講堂において、その第一回目が開催された。

始めに、皮膚科部長の高橋慎一教授により、「掌蹠膿疱症の原因と治療 - 今、再び注目されている皮膚疾患 - 」と題する講演を伺った。続いて、臨床検査科部長の宮内 潤教授により、「小児白血病に関する最近の知見：ダウン症の一過性白



講演する高橋教授：平成17年9月28日(水)、市川総合病院講堂



講演する宮内教授：平成17年9月28日(水)、市川総合病院講堂

血病と若年性骨髄単球形白血病について」と題する講演を伺った。

講演は、各職種から多数の参加者を得て、各領域の職員にもわかりやすいように言葉を選んで行われ、終了後は質疑応答もあり、有意義なものとなった。

#### 第216回大学院セミナー開催

平成17年9月29日(木)午後6時より千葉校舎第5教室において、第216回大学院セミナーが開催された。今回は、岡山大学大学院歯学総合研究科歯顎口腔病態外科学分野の佐々木 朗教授を講師に迎え、「破骨細胞を標的にした治療、癌治療から矯正治療へ - 岡山大学における顎変形症の治療について - 」と題する講演を伺った。

癌の骨浸潤・骨破壊部においては癌細胞が直接骨を破壊するのではなく、骨吸収により骨に蓄積された成長因子が癌細胞、骨芽細胞、破骨細胞などとクロストークされて骨破壊が進行すること、破骨細胞はその中心的な役割を果たしているため、破骨細胞性骨吸収を標的とした治療が有効なことなどを教示された。また、癌のみならず他の病因による骨破壊も同様の機序と考えると、矯正力による歯牙移動時の骨吸収の制御や破骨細胞による根吸収の制御も治療戦略的に調整可能であることなど、たいへん示唆に飛んだ指摘があった。さらに、岡山大学病院の顎変形症の治療について話題が広がり、内容の濃い有意義な1時間半のセミナーであった。



講演される佐々木先生：平成17年9月29日(木)、千葉校舎第5教室

セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する勉強会開催

平成17年9月29日(木)午後6時から千葉校舎第1

会議室において、第2回セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する勉強会が開催された。

今回の勉強会は、セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会委員及び相談員を対象としたもので千葉校舎19名、市川総合病院2名、水道橋校舎4名、合計25名が出席した。

勉強会を始めるにあたり、本学セクシュアル・ハラスメント防止対策委員長である薬師寺 仁副学長より挨拶があり、本勉強会開催の主旨等について説明があった。

講師には、財団法人21世紀職業財団の「セクシュアルハラスメント防止」従業員研修専任講師の脇田直子氏をお招きした。

脇田氏の講演はまず、「セクシュアルハラスメント認識度チェックシート」を基に出席者の認識度を確認させ、セクシュアルハラスメントとは、相手の意に反する性的言動等であり、受け手の不快度の程度によりセクシュアルハラスメントになることを認識させられた。

次に相談員がセクシュアルハラスメント相談を受けた場合の内容の確認、相談者への気持ちの配慮の仕方や秘密保持など、相談員としてどのような対応をとったら良いかを事例を交えて詳しく講演された。

この講演を聴講した防止対策委員会委員・相談員にとって、あらためて職場におけるセクシュアルハラスメントに対する問題意識の向上と知識の習得を得ることができ、大変有意義な勉強会となった。



講演される脇田氏：平成17年9月29日(木)、千葉校舎第1会議室

#### 水道橋病院アピールポスター発表会開催

平成17年9月30日(金)午後6時より、水道橋校舎血脇記念ホールにて「水道橋病院アピールポスター発表会」が開催された。この発表会は、教職

員の意識向上を目的とし、診療科等の部門ごとにそれぞれの特徴等を患者に対してアピールする内容のポスターを作成・発表するもので、柿澤卓水道橋病院長の発案により、水道橋病院機能機構改革の一環として今回初めて開催された。

まず、各部門の代表者が、実際のポスターを示しながら内容についての発表を行った。引き続き、会場内にポスターを並べ、各部門の担当者による質疑応答を行った。ポスターはいずれも内容・デザインに工夫を凝らした力作で、会場に集まった教職員は熱心に各部門の発表に耳を傾けていた。また、ポスターの「発展性・企画性」「アピール性」「デザイン」の3項目を評価する

アンケートを行った。アンケートの集計後、各項目の上位部門に部門賞、総合計の得点の最も高い部門に「優秀賞」を授与する予定である。



ポスター発表風景：平成17年9月30日(金) 水道橋校舎血脇記念ホール

## 学生会ニュース

SCP日本代表選抜大会 中村彩花さん(第6学年)が見事入賞!

平成17年8月10日(水)、2005年度スチューデント・クリニシャン・プログラム(SCP)日本代表選抜大会(社団法人・日本歯科医師会主催)が東京都千代田区の新日本歯科医師会館において開催された。今大会に本学は2年ぶりに参加し、本学代表のスチューデント・クリニシャンとして第6学年の中村彩花さんが英語による研究発表を行った。

スチューデント・クリニシャン・プログラムは、歯科学生が自ら研究テーマを設定、まとめた調査研究結果を、テーブルクリニックでプレゼンテーションを行い、その内容を競いあうプログラムで、日本では11回目の開催である。今回は22校から22名が参加し、英語によるテーブルクリニックが行われた。



真剣な表情で中村さんの展示を見る来場者：平成17年8月10日(水) 新日本歯科医師会館

中村彩花さんは小児歯科学講座指導の下「第一大臼歯の前後の咬合関係の変化および乳臼歯における齶触経験歯数が下顎第一大臼歯の齶触罹患に及ぼす影響について：16年間の追跡調査」をテーマに発表を行い、見事3位入賞を果たした。

中村彩花さん「ポスター製作、発表の練習等大変だったことはありますが、この大会を通じて仲間ができて、多くのことを学べたと思います。ご支援して下さった小児歯科学講座の米津卓郎先生、国際歯科医学情報支援研究室のウィリアムズ先生、小児歯科学講座の先生方、本当にありがとうございました。」

今後も中村彩花さんに続き、意欲的に大会に参加する後輩が続いていくことが期待される。

延世大学校歯科大学学生代表が本学訪問

昭和63年度から開始され、今年で18年目を迎えた本学の姉妹校・延世大学校歯科大学(韓国)との学生交流プログラムは、朴永哲学長夫妻、徐廷澤学生副学長、鄭翰聖指導教授、金重甲教学課長引率のもと男子9名、女子4名の合計13名の学生代表が平成17年8月22日(月)～26日(金)までの4泊5日の日程で来日した。本学からは、内山宙学生会歯科学生交流局長(4年)を中心とした有志学生が参加した。

22日(月)13時30分着の大韓航空KE001便で来日



した延世大学校歯科大学一行を成田空港で本学学生代表が出迎え、16時より第1会議室において金子 譲学長、井出吉信学監、平井義人学生部長ほか大学関係者出席のもとに歓迎式典が行われた。その後、会場をホテルスプリングス幕張「エメラルド」に移して歓迎夕食会が催され、両校学生の親睦も一気に深まった。

23日(火)は9時より千葉校舎第1会議室において矢島安朝助教授(口腔インプラント科)による特別講演の後、「両国の美意識」と題し、1回目の学生会議が行われた。引き続き千葉病院・千葉校舎見学をし、その後東京ディズニーシーにおいて楽しい一時を過ごした。

24日(水)は市川総合病院講堂に場所を移し、畠 亮市川総合病院長の歓迎の挨拶に続いて10時より石原和幸助教授(微生物学講座)による特別講演、「歯科医師への道のり」というテーマによる学生会議がそれぞれ行われた。終了後は市川総合病院を見学し、午後はグループに分かれての都内観光となった。

25日(木)は水道橋病院を訪問し、柿澤 卓水道

橋病院長以下教職員の歓迎を受けた一行は病院内を見学。午後は自由行動となり、延世大学の学生と本学学生がグループを組んで都内各所の散策を楽しんだ。大型の台風11号が千葉近郊にせまっていたため、夜はあいにく予定の屋形船を中止することになってしまったが、代わりに東京タワーの見える高層レストランで学生会主催の夕食会が催された。

最終日の26日(金)は9時30分より第1会議室において金子学長、平井学生部長ほか大学関係者出席のもとに歓送式が行われた後、一行は成田空港へ向かい、13時55分発の大韓航空KE704便にて帰国した。本プログラムは短い期間ではあったが、学生間のみならず教職員同士の交流も活発に行われ、両大学の姉妹校としての絆を一層深めることができた5日間となった。

また、昨年度は、本学より学生と共に金子学長が訪韓し大歓迎を受けたが、本年度は朴学長がご令室を伴い、始めて本学に來校された。朴学長夫妻は金子学長のおもてなしのもと、都内や箱根を観光し、両学長は日本の文化から両大



歓迎のプレゼントを渡す内山局長(右)：平成17年8月22日(月)、千葉校舎第1会議室



夕食後にみんなで『ハイチーズ!』：平成17年8月22日(月)、ホテルスプリングス幕張



興味深く話に聞き入った大学・病院見学：平成17年8月23日(火)、千葉校舎基礎棟2階



東京タワーを横目にディナーを楽しんだ：平成17年8月25日(木)、レストラン「春秋」

学の将来像まで様々に意見を交換しあい、昨年  
に続き、より一層の友好を深めた。

この学生交流プログラムは、隔年で相互の大学  
を訪問しあいながら親交を深めていくもので、  
来年は、本学学生が訪韓する予定となっている。  
この交流をとおりて学生が得るものとして語学  
力の向上はもちろんのことであるが、一つには、  
今後継続的な交流をしていくことで、将来の歯  
科医療界を担う上でグローバルな視野を育てら  
れる事であるといえるだろう。

内山 宙学生会歯科学生交流局長

「局長として参加した延世の交流会は大変思い  
出に残るものでした。交流会が終わった後もお  
互い連絡を交わしあい、お互いの友情を深め合  
っています。言葉や準備の苦勞、交流期間中の  
台風の到来など、大変なことはたくさんありま  
したが、今となってはとても良い思い出です。  
外国の友人を作る機会をくれた大学に大変感謝  
しています。有難うございました。これからも  
両校のこの関係がずっと続けば、大変良いこと  
だと思います」

## 図書館から

「Books Pick UP」

平成17年9月1日(木)より「睡眠」をテーマとし  
て掲示している。

この掲示内容はホームページ上の「テーマ別図書  
リスト」からも、閲覧可能。

図書館では年4回、テーマを決めて、図書資料  
のポスター掲示とホームページ上への掲載を行っ  
ている。

本学教員著作リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに  
限る。)

眞木吉信、古賀 寛 他 著「フッ化物徐放性修復材  
料ガイドブック」永末書店

田中陽一[ほか] 著「病理・口腔病理サブノート」  
永末書店

柳澤孝寛[ほか] 著「組織学・口腔組織学」わかば  
出版

下野正基 編「スタンダード病理学」学建書院

図書館ホームページメニューの紹介

J-STAGE - 科学技術振興機構(JST)が運営する  
日本国内の科学技術情報関係の電子ジャーナル  
発行を支援するシステム。J-STAGEは平成11年  
10月から運用開始され、現在は160誌以上のジャ  
ーナルと80種以上の予稿集が公開されている。

J-STAGE上で公開されている論文は、PubMed  
など外部サイトからのリンクと、引用文献から  
外部サイトへのリンクの双方向リンクが可能。

また、電子ジャーナル公開とともにインターネット  
経由で投稿から査読・審査までをオンライン化  
するシステムも利用機関に提供されている。

資料は著者名やキーワードからの横断検索が  
可能。ただし、電子ジャーナルの公開に関して  
は各ジャーナルを発行する学協会の方針に任さ  
れており、アブストラクトまでは見られるものの、  
全文は有料公開のものが多い。

本学からはThe Bulletin of Tokyo Dental College  
が電子ジャーナル化され、全文が無料で閲覧可  
能です。

血脇守之助先生揮毫掛け軸のご寄贈

本学のホームページには「建学者血脇守之助」  
のコンテンツ(<http://www.tdc.ac.jp/chiwaki/index.html>)があるが、これをご覧になった同窓から本  
学史料室([shiryoshitsu@tdc.ac.jp](mailto:shiryoshitsu@tdc.ac.jp))あて、掛け軸ご  
寄贈のお申し出があった。新潟県燕市で開業の  
高井千一先生(昭和38年卒)であり、ご父君の  
高井 格先生(昭和9年卒)が血脇先生から開業のお  
祝いに頂戴したものとのことである。そのご父  
君は卒業の翌年に新潟市内で開業し、その後、  
昭和20年に戦死なされている。揮毫の判読につ  
いては、千一先生が知人を介して識者をお願い  
したところ、「晴如水兮過如矢(はれてみずのご  
とし、すぐることやのごとし)昭和十年八月 祝  
高井君創業」であると教示されたそうで、その通  
解として「あっぱれの君の創業は晴れた空の如く  
であり、前途限りなく、月日は矢のようにはや

く過ぎ去る。自重して事業にあたれよ。」との訓えであった由である。同じ揮毫が1点、これまでも本学史料室に収蔵されており、これは昭和60年11月、新高輪プリンスホテルに於いて本学同窓会創立90周年式典が執り行われた際に、「血脇守之助先生ご遺墨展示」として出展している。脇に「昭和六年十月」と揮毫されており、今般ご寄贈戴いた揮毫が昭和十年であることから、血脇先生が長いあいだ大切にしていた言葉であろうと察せられる。興味深くまた大変貴重な資料である。



寄贈された掛け軸

## 平成17年度科学研究費補助金決定

平成17年度科学研究費補助金は平成17年6月17日付で文部科学省および日本学術振興会から配分額の決定が通知された。

本年度、本学に交付される科学研究費補助金の研究種目別決定額および研究者別交付額は別表の通りである。

### 平成17年度科学研究費補助金交付決定一覧

平成17年8月1日現在

研究種目	件数	交付決定額(千円)		
		直接経費(研究費)	間接経費	合計
基盤研究(A)	1	3,000	900	3,900
基盤研究(B)	5	16,800		16,800
基盤研究(C)	24	31,800		31,800
萌芽研究	6	9,000		9,000
若手研究(B)	27	30,700		30,700
合計	63	91,300	900	92,200

## 科学研究費補助金 平成17年度新規採択課題の要旨

榛村 重人(基盤研究B一般)

### 「低酸素培養による角膜幹細胞の分離」

本研究は角膜再生医療で用いる角膜上皮幹細胞を選択的に培養する方法を開発するものである。角膜上皮幹細胞は角膜周辺の輪部に存在することは経験的に知られているが、選択的に採取することは難しい。細胞分析装置(Cell Sorter)を用いる方法が報告されているが、機会が高価であることと、紫外線励起光による細胞障害が問題となっている。我々は幹細胞が休止状態にあり、酸素消費をあまり必要としないという仮説をもとに、幹細胞

のみを選択的に培養する低酸素条件を検討する。幹細胞を用いた再生医療に向けて、本研究の成果が上がれば、従来の方法より簡便に角膜上皮幹細胞が培養できる可能性がある。

水口 清(基盤研究B一般)

### 「DNA多型を用いた法歯学的個人識別検査法の適用範囲の拡大と検査法の転換」

高度に変性した遺体や部分遺体の個人識別において、DNA多型検査の占める役割は大きい。近年のDN多型検査はキット化された多座位のSTR

(Short Tandem Repeat を同時増幅することにより、個人識別を行う方法が一般化してきているが、変性度合いが高度になると正確なSTR多型結果を得ることが難しい資料がでてくる。さらに遺体の情報がほとんどない場合は、対象者の由来に関する情報が必要となってくる。本研究はこのような場合、対象者の地理的な由来に関する情報を得ると同時に、常に正確な情報を得るために、検査対象をSTRから一塩基多型(SNP)による検査法に転換していくこと、しかも、男女間の遺伝子混合の割合が少ないミトコンドリアDNA、Y染色体多型にX染色体多型の一塩基多型(SNP)の情報を優先的に応用し、これらの情報を元に常染色体のSNP検査を進めていくことを目的に計画されたものである。高度変性資料からの個人識別において、歯牙は最も適した生体資料であるところから、歯科領域におけるこの種の研究は社会的な適用範囲が極めて広いものと考えている。

東 俊文(基盤研究C一般)

#### 「組織幹細胞を用いた肝不全療法開発のための基礎的研究」

患者個人の組織に存在する幹細胞を組織の一部から採取し培養して増やし、痛んだ組織に戻して治療する再生医療が注目されている。倫理的問題が少ないうえ、ウイルス感染拒絶反応などの問題が非常に低い点が利点である。組織幹細胞を簡単に分離する方法として、サイドポピュレーション細胞(SP細胞)と呼ばれる細胞の分離方法がある。SP細胞は通常採取された状態は静止状態にあり増殖しない。我々は組織障害状態では組織中SP細胞のアポトーシスが低下し高い増殖能力をもつことを見出した。組織炎症に関わるサイトカインの情報伝達系が組織幹細胞の動態を支配していると想定しの同定、作用についての詳細な検討を行う。本研究は従来難しいとされていた組織幹細胞を効率よく培養する技術開発につながると考える。

安藤 暢敏(基盤研究C一般)

#### 「ティッシュエンジニアリングを応用した組織再構築型人工食道の開発」

食道癌手術における再建用臓器として、ティッ

シュエンジニアリングを応用した人工食道を開発研究している。現在までの研究で、培養食道上皮細胞と線維芽細胞を用いて実験動物広背筋上に食道類似の管腔構造の作製が可能となり、さらに平滑筋細胞を導入して平滑筋層を有する食道壁類似の組織構築が可能となった。今後、血管新生を促進因子(b-FGF, VEGFなど)を用いて研究を進め、臨床応用可能な人工食道の開発を目指している。

現在食道癌の手術では食道再建用臓器として胃・結腸・小腸などが用いられるが、手術侵襲や臓器犠牲が大きく術後の栄養状態、QOLは満足できるものではない。人工食道が臨床応用されれば食道外科領域での画期的な進歩となりうる。

兼子 智(基盤研究C一般)

#### 「ICSIにおけるヒト精子の質的保証 - DNA 2重鎖切断、片側開裂を有する精子の排除」

われわれは新たにsingle cell pulse field gel electrophoresis(SCPFGE)を開発し、個々の精子核においてintactなDNA fiberとdouble strand break(DSB)による断片の同時観察を可能とした。本法を用い、DNA断片化の様式は多様であり、顕微受精(ICSI)の対象となる重度精液所見不良例ではDSB精子比率が増加することを示した。さらに精子精製により、DSB精子比率が1%以下の分画を得ることに成功した。

本研究はさらに個々の精子核においてDNA fiber中のnick(single strand break, SSB)を定量的に観察する方法を開発し、これを指標としてDSB、SSBを有しない精子の精製法を確立し、ICSIの安全性を確保することを目的とする。

佐藤 裕(基盤研究C一般)

#### 「もう一つのヒトう蝕原因菌で遅れている遺伝子機能解明への一つのアプローチ」

*S. mutans*と*S. sobrinus*はヒトのう蝕において最も重要な病原因子であるが、*S. sobrinus*はより重篤なう蝕罹患者からより高頻度検出されることなどから、*S. mutans*より総合的にう蝕原性が高いとされる。しかし研究面では、*S. sobrinus*を用いた分子生物学的研究は*S. mutans*のそれより圧倒的に少ない現状にある。その最大の理由は、*S. sobrinus*はロックアウト変異体等を構築するための形質転

換が出来ないという点にある。そこで申請者は *S. sobrinus* におけるノックアウト変異体構築法に代わり、モデル細菌として近縁の *S. criceti* を用いその特異株を構築すること目的とした。現段階では、直接臨床への応用展望は描けないが、ヒトう蝕の機構解明には片手落ちであるといわざるを得ない現状を少しでも改善できるものと考ええる。

村松 敬(基盤研究C一般)

「遺伝子解析ならびにプロテオミクスによる出生前の歯乳頭に潜在する歯牙形成機構の解明」

歯牙発生においては歯原性上皮と間葉の相互作用によって歯胚形態や細胞分化が精巧に制御されている。この関係を示した研究として、Palmerら(1984)は胎生16日のマウス歯原性上皮と歯乳頭を別個体から摘出、組合せると歯牙が形成されるが、同上皮と生後3日の歯乳頭を合わせても歯牙は形成されなかったと報告している。このことより歯牙形成に関与する遺伝子が出生前後の歯乳頭において消失したと推測されるが、それが一体何であるのかは不明である。そこで本研究では消失した遺伝子が何であるのかを検証するため、出生前後のマウス歯乳頭をマイクロアレイという一度に数万種類もの遺伝子の変化を解析する機械を用いて比較し、消失した遺伝子の検索を行うことを目的としている。

櫻井 薫(基盤研究C一般)

「咀嚼によってストレスが緩和する」

我々はクレンチングという行為が、ストレスの緩和になることを唾液中のコルチゾール濃度を指標にして証明した。本研究ではその研究方法を一部採用し、「咀嚼によってストレスが緩和する」という仮説を証明するために、ストレスを負荷した場合とそれと同時に咀嚼を行った場合のストレスの状態を分析する。分析には交感神経系の指標として被験者の発汗状態と指尖脈波を観察し、また内分泌系の指標として唾液中コルチゾール濃度を調査する。本研究の結果は、咀嚼指導に役立つと考える。

河田 英司(基盤研究C一般)

「生活歯漂白はエナメル質表層のみの白濁化では達成できない」

エナメル質への過酸化水素の作用については、エナメル質表層のみに作用して内部の色調を目立たなくするマスキング説と、エナメル質表層でラジカルが生成し、そのラジカルがエナメル質に浸透・拡散して象牙質まで達して漂白効果を発現するという説がある。

我々は、生活歯漂白に用いる過酸化水素がエナメル質を通過し、象牙質に拡散し、歯髄腔へ何らかの影響があることを報告している。多くの歯科医は危険性を承知しながら、エナメル質表層のみに作用して内部の色調を目立たなくするという、マスキング説を唱え日々漂白処置を実施しているが、マスキング説では変色歯の漂白は不可能であることを証明することを目的とする。

杉山 哲也(基盤研究C一般)

「高齢者の口腔衛生状態を向上させる二酸化チタン薄膜加工義歯床の検討」

工業界では二酸化チタンの超親水性や光触媒作用による防汚作用を利用した製品が数多く開発されており、医用分野でも義歯洗浄剤に二酸化チタンを含有する製品が発売されている。我々は、食物残渣の付着が少なく、付着したタンパクや食物残渣の清掃が容易な義歯床の開発を目的として、義歯床用アクリリックレジン表面に二酸化チタンを薄膜コーティングすることを考えた。これまでにレジンプレート表面の食物残渣が、二酸化チタンの超親水性により容易に除去できることを確認した。今後、コーティング方法、機械的強度および安全性に検討を加え、臨床応用が可能となれば、特に要介護高齢者の口腔内衛生状態の向上に大きく貢献するものと考えられる。

三宅菜穂子(基盤研究C一般)

「ゼータ電位による補綴材料およびアパタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価」

これまで補綴材料表面に対する口腔内細菌の吸着の機序を明らかにしてきたが、今回、被験材料にヒドロキシアパタイトを加え、補綴材料および歯表面に対する唾液タンパクと口腔内細菌

の吸着・吸着除去効果、アパタイト表面へのレーザー照射による唾液タンパクと口腔内細菌の吸着阻止効果の機序を明らかにすることを目的とした。材料表面のゼータ電位・接触角の測定、SEM・AFMによる微細構造観察、電気泳動光散乱光度計を用いた材料表面への唾液タンパクの吸着実験と除去実験、レーザー照射後のアパタイト表面のゼータ電位・接触角の測定、レーザー照射後のアパタイト表面への唾液タンパクの吸着阻止効果、口腔内細菌の吸着阻止効果についても検討することとした。

内山 健志(基盤研究C一般)

「日本人下顎前突症患者における候補遺伝子の解析」

下顎前突症は、発育に伴って漸次、顎の形態異常を示す先天異常である。生下時には異常がなく思春期頃に顕著となってくるので、顎の変形を示す発育異常として捉えられている。原因は明らかでないが、ハプスブルグ家のように一家系に何代にもわたって本症が認められている事実から、遺伝的要因が大きく関与していると言われている。本研究は、患者およびその周りの家族を対象にインフォームドコンセントを得た後、現在では、2家系19人から血液を採取しDNAを抽出し連鎖解析を完了した。そして、3領域に連鎖が認められた。今後、家系サンプル数を増やし追試験と連鎖が認められた部位の遺伝子の変異解析を予定している。

高木多加志(基盤研究C一般)

「顎変形症患者の硬組織と軟組織の三次元形態分析に関する研究」

顎変形症患者の治療は、咬合の再構成を含む顎顔面骨格の機能的な改善と審美的調和を目標として行われる。現在、コンピュータを利用した二次元のセファロ分析やSVTOなどによる評価はほとんどの施設で行われている。しかし、顎顔面骨格や顔面軟組織形態は三次元的な形態として治療計画を行う必要がある。そこで、東京歯科大学と大阪大学の両施設で行なっているセファロスタットを用いて採取した硬組織CTデータと顔面用非接触三次元形状計測装置による軟組織データをコンピュータ上で骨格の三次元分析や外科矯正治療の

手術シミュレーションで応用し、かつその評価を行うことを目的として本研究を申請した。

本研究は、研究資料として東京歯科大学千葉病院で撮影したCT画像と本学HRC保健情報学研究室の顔面用非接触三次元形状計測装置より得られた顔面の三次元形状データを利用する。研究方法は両データを大阪大学で開発中のASPOS ver2の機能を使ってAVSdataへ変換してASPOSファイルを作成する。また、術後評価のための三次元画像の自動位置合わせ処理モジュールを作成し、時系列での情報をまとめたファイル形式を新たに策定する方法も検討する。

これらの顎変形症治療の三次元分析・診断から治療後の評価にいたるシステムは、今後の顎変形症治療の中核をなすシステムとして多くの施設で臨床応用が待ち望まれている。さらに、高度先進医療への申請も視野にいたれた研究開発にしていきたいとも考えている。

伊藤 明代(基盤研究C一般)

「歯周治療におけるバイオフィーム駆逐ストラテジー」

細菌バイオフィームの最大の特徴は、細菌と固体があるいは細菌同士がグリコカリックスという菌体外多糖で凝集しているということである。そのため抗菌薬や殺菌剤はバイオフィームの深部へ浸透しにくく、薬剤の効果が減弱される。本研究の目的は、バイオフィームに関して、特にグリコカリックスの存在に注目し、歯周病関連性菌のバイオフィームの形成とグリコカリックスへの関与、又その形態学的・生化学的特徴および関連遺伝子等について検索し、その駆逐に対する方略を考えることである。更に、口腔内細菌叢の質的改善についても検討し、新しい方面からのアプローチの一つとして、歯周病の予防法および治療法の確立することをめざしている。

宮内 潤(萌芽研究)

「ダウン症児における一過性骨髄増殖症の自然治癒の機序に関する細胞生物学的研究」

ダウン症児の新生児期には、急性巨核芽球性白血病と鑑別が困難な芽球の増殖を示しつつも、無治療で数ヶ月以内に自然治癒する特有な病態があり、一過性骨髄増殖症(transient myeloproliferative disorder; TMD)などと呼ばれる。急性巨核

芽球性白血病は骨髓線維症を合併する 경우가多いが、TMDでは肝線維症をしばしば併発することを筆者は報告し、TMDが骨髓ではなく胎児肝にて発生する特殊な白血病であるという仮説を提唱した。TMDの自然治癒は、生後肝臓から骨髓に造血の場が移行することに関連がある可能性を考え、本研究では肝と骨髓の造血微小環境がTMD細胞の増殖・分化に及ぼす影響を解析する。がんの自然治癒機序の解明は、新しいがん治療法開発への道を開くものとして期待される。

川口 充(萌芽研究)

「個体レベルの唾液腺機能解析の為のsiRNAと超音波を応用した遺伝子抑制法の開発」

ソノポレーションsonoporation(超音波穿通)法は、細胞内への薬剤の吸収効率を上昇させるユニークなdrug delivery systemとして着目されているが、in vivoの応用例が少ない。これは、特定の臓器の薬物濃度を高める手法に難があるからである。しかしながら、唾液腺は、外導管から逆行性に薬物を注入することが可能であること、体表面に近い臓器であることから、組織内濃度を高めた上で、sonoporationを行うのに非常に好条件な臓器である。そこで、short interfering RNA(siRNA)を導入し、特定のタンパク発現をノックアウトあるいはノックダウンして、薬物の作用解析を行うことを目的とした研究に応用するために実験方法の開発を試みた。初期段階の実験では、蛍光標識されたsiRNAを購入し、細胞への移行を組織化学的に調べる。さらに実際のノックダウンしたい遺伝子のsiRNAを作成しその効果を生理学的、生化学的に調べる。この方法が動物で安定した結果が得られればやがては、ヒトに応用して、唾液腺の遺伝子導入治療に役立てることができる。

佐野 司(萌芽研究)

「FLAIR法MR画像による顎関節滑膜炎の病態診断プロジェクト - joint effusionの成因の解明 - 」

顎関節滑膜炎は顎関節症における顎関節腔内の病的浸出液すなわちjoint effusionの発生原因と考えられているが、その証明はなされていない。joint effusionは、T2強調MRI画像で関節腔内の高信号像として描出される。一方、顎関節の滑膜炎は、joint effusionの発生に大きく関与すると推察され

る初期の滑膜炎を含め、T2強調MRI画像でjoint effusionの中にその存在が隠蔽される。また、小関節であることから、滑膜自体は、MRI画像では正確な検出がほとんど不可能であり、顎関節滑膜炎の病態の解明はなされていないのが現状である。本projectでは、脳脊髄液の近接により診断が困難とされている脳内の病変診断のために開発されたFLAIR(fluid attenuated inversion recovery)法を応用し、顎関節滑膜炎の新たなMRI診断法を開発することを最終的な目的とする。

佐竹 良之(若手研究B)

「再生表層角膜移植片の性状およびバリアフリー機能解析」

角膜上皮は、視覚を構成する光学系の入り口のみならず、外界からの刺激を遮断するバリア機能も有する重要な組織である。この角膜上皮の幹細胞が傷害された角膜輪部機能不全では、角膜上に結膜組織が侵入するため視機能は非常に低下する。この数年、これらの病態を治療するためにin vitroで角膜上皮、結膜上皮、口腔粘膜上皮等を培養し、作製した上皮シートを用いた眼表面再建術が確立され、既に臨床応用されている。その有効性は確認されているものの、短期的な生着率のみの検討で、臨床的機能評価が全くなされていない。そこで角膜上皮の重要な役割であるバリア機能を指標に、電子顕微鏡、免疫染色等による組織学的検討や実際に移植した培養上皮シートの性状やその分化の度合いを検討する。

田 聖花(若手研究B)

「非侵襲ムチン定量による眼表面評価法の確立」

現代病ともいわれるドライアイは医学的には涙液の量的・質的異常と定義され、量の異常である涙液減少型ドライアイのほかに、涙液量は正常にもかかわらずドライアイ症状や角結膜上皮障害をきたす蒸発亢進型ドライアイがあり、近年、環境変化などによって急増しているが詳しい病態は明らかになっていない。また涙は油層、ムチン層(粘液層)、水層から構成されており、油層や水層とドライアイの関係は明らかになりつつあるが、ムチン層については未知の部分が多い。そこで蒸発亢進型ドライアイにおけるムチン動態について研究し、治療に結びつけ

ることが本研究の目的である。

嶋 香織(若手研究B)

「唾液腺腫瘍構成細胞の分化におけるアクアポリンの関与について」

唾液腺腫瘍の発生過程は明らかではなく、病理組織診断に苦慮することが多い。従来の唾液腺腫瘍に関する研究は、手術材料及各施設で樹立した細胞株を用いた浸潤転移の検索が主体であった。本研究では、唾液腺腫瘍由来細胞を用いて、Aquaporin (AQP) familyの発現と機能を形態学的、細胞生物学的に検索し、唾液腺腫瘍構成細胞の分化機構を解析する。AQPは多機能タンパクで、水輸送以外の機能は明らかではない。しかし、唾液腺の腺房細胞や分泌顆粒での発現が報告されており、唾液腺の分化に関与している可能性を持つと考えられる。本研究により、唾液腺腫瘍の分化機構の一部が明らかになれば、診断や予後の予測に応用できると考えられる。

天谷 哲也(若手研究B)

「2波長発振レーザー照射後の組織は、どのような治癒形態をたどるのか？」

研究に用いる試作レーザー発振装置はNd:YAGより若干長い波長の1.4 $\mu$ mからEr:YAGの波長域を超える4.0 $\mu$ mの範囲において波長を連続的に変えて出力することができ、また異なる2つの波長域のレーザーを取り出すことが可能である。この装置で発生する近赤外領域の両波長を至適条件で使用することにより、波長2.94 $\mu$ m付近の安全な切開能力に加え、副波長としての新機能を一度に得ることが可能である。本研究では軟組織切開後の治癒促進効果に有効な照射条件を止血効果・殺菌効果の視点から検討する。鋭利な切開に加え殺菌効果および止血効果が得られる至適照射条件を検索することは、患者の負担の軽減に役立つものと思われる。

石崎 憲(若手研究B)

「義歯床による機械刺激は上皮内機械受容細胞の形態を変化させるか？」

本研究は義歯床装着による機械的刺激が床下粘膜に存在する感覚受容器に及ぼす影響を明らかにすることを目的とし、口腔内に多く存在する

機械受容細胞であるメルケル細胞の分布、形態などを動物実験ならびに生体材料より把握する。また一方で細胞培養を行い様々な機械刺激に対するメルケル細胞の応答特性を計測し、検討を加える。その結果をもとに、義歯床を用いて口腔粘膜に負荷をかけ、それに対してのメルケル細胞の反応を観察し、検討を行う。触圧覚機能を持つメルケル細胞と、口腔粘膜に対して機械刺激を与える義歯との関係が明らかになれば、粘膜の圧感覚など生理学的配慮を加えた義歯の製作が可能になる。

高木 一朗(若手研究B)

「頬粘膜圧痕の形成因子についての検索」

頬粘膜圧痕は、異常機能(parafunction)の1つであるブラキシズム、特にクレンチングによって発現すると考えられている。しかしそのことを裏付ける科学的根拠のある報告は皆無である。そこで本研究では、頬粘膜圧痕の成因に関与していると考えられている因子を検索し、詳細に検討を行うものである。方法としては、頬粘膜圧痕の実態調査、人体解剖学的観察および頬粘膜圧痕の認められるものと認められないものとを圧力センサーと筋電計を用いての比較検討などを行い、頬粘膜圧痕の成因を解明する。この研究の臨床への応用展望としては、頬粘膜圧痕の存在がクレンチングの臨床的指標になり得るのかが、明確になると考えられる。

武本 真治(若手研究B)

「生体分子修飾によりチタンは防食可能か？」

チタンやその合金の歯科臨床への応用が盛んに行われるようになってきているが、一部で齶蝕予防剤や義歯洗浄剤などによる変色や腐食の報告が認められる。これまでの研究により、タンパク質のような生体分子の存在がチタンやチタン合金の腐食に影響していることが判明している。本研究では、そのようなチタンおよびチタン合金の口腔内で起こる腐食のメカニズムを解明するとともに、表面に生体分子修飾することにより防食を試みることを目的とする。そのような表面修飾法によりチタンやチタン合金の防食が可能となれば、歯科臨床へのチタン合金の普及が飛躍的に増大させることができる。



野村 武史(若手研究B)

「ヒト口腔癌の顎骨浸潤に関わる分子標的因子の解明」

口腔扁平上皮癌の顎骨への浸潤は臨床的に重要な問題点である。我々は顎骨浸潤のメカニズムについて動物実験で解析した結果、破骨細胞性骨吸収が重要な役割を演じていること、さらに破骨細胞を分化、誘導する種々のサイトカインが関与している可能性があることを明らかにした。一方近年骨・骨代謝研究において、骨芽細胞と破骨細胞の動態が解明され、これらを取りまくサイトカイン・ネットワークが基礎分野で明らかにされつつある。今後はこれらをふまえた顎骨浸潤癌の詳細なメカニズムを解明し、新たな診断法や治療法の開発に着手する必要がある。このため我々は従来おこなってきた基礎的検討に加え、臨床検体を用いたヒト口腔癌の顎骨浸潤に関わる分子標的因子の解析を計画した。

半田 俊之(若手研究B)

「アデノシン三リン酸の鎮痛作用と抗炎症作用を利用した新しい術後疼痛管理」

術後の痛みの抑制には、中枢性の鎮痛以外に末梢の組織で起こる炎症性の痛みを抑制する必要がある。アデノシン三リン酸の代謝産物であるアデノシンは、様々な動物実験、臨床研究において抗炎症作用が認められてきたが、アデノシン三リン酸ではいまだない。今回我々は、口腔外科手術後の炎症反応に対してアデノシン三リン酸が抗炎症作用を発揮するか否かを調査する。研究方法は、全身麻酔下に、手術開始時から手術終了まで、アデノシン三リン酸もしくは生理食塩水の持続静脈内投与を行い、手術終了直後から炎症性サイトカイン(IL-6、IL-10、TNF- $\alpha$ )の変動、ペインスコア、患者主導型術後鎮痛システムを用いた鎮痛薬の消費状況、副作用の有無について調査する。

古谷 義隆(若手研究B)

「吸収性プレートを用いた顎骨欠損部での新しい骨延長法の開発」

歯槽骨の水平的仮骨延長を行う場合、骨量が少なく骨を分割することが困難であることも多い。さらに分割した骨片が吸収されてしまうこともあり、薄く小さな移動骨片を作製する意味

があるのか疑問であった。そこで私たちは移動骨片の代わりに薄い吸収プレートを骨面と骨膜の間に挿入し、創の治癒後に粘膜に貫通させたスクリューを回転させてプレートと骨膜を持ち上げ、徐々に骨の増量を図る方法を考案した。本年度は家兎を用いてチタンプレートにより、骨膜下での骨形成実験を行っている。この方法でいくつかの問題点も認められたが、プレートとスクリューの設定方向により三次元的に骨を増量させることが可能となった。この方法が臨床的に応用されれば、口腔顎顔面領域のように複雑な形態の回復がより簡便にできるようになると思われる。

山本 信治(若手研究B)

「口腔癌における循環血清free DNA(腫瘍)の検出とその臨床応用に関する研究」

癌治療において転移の有無は重要な診断情報であり、その後の治療方針に大きく影響する。一旦、転移が発生するとその結果は死に至ることが多い為に、転移が確認されていなくても、原発腫瘍の状況等から転移の可能性が高いと判断されたときは予防的な抗がん剤治療が行われる。循環血清中には多くのfree DNAが存在する事が知られているが、その中で、腫瘍細胞のfree DNAの特定が可能となれば、転移の早期診断や治療の効果判定に大いに役立つのは明らかである。現在までに行われた(あるいは進行中の)口腔領域の種々の腫瘍におけるヘテロ接合性消失(LOH)に関する研究から、組織型別LOHのマイクロサテライト領域が判明している。このLOHの局在情報を癌細胞の指紋と考え、循環血清中の腫瘍free DNAの検出を行う研究が可能となっている。

そこで、本研究は当科を受診した、口腔癌患者から静脈血を採血し、その血清中からfree DNAを、白血球から正常DNAを抽出し、free DNA中における腫瘍LOHの有無を検索する。その結果判明する血清中の腫瘍DNAの存在を体内に潜む転移細胞の早期発見に結びつけられれば、口腔癌の転移の診断・治療の向上に大きく貢献することが期待される。

村上 聡(若手研究B)

### 「炭酸ガス(CO<sub>2</sub>)レーザーによるオーラルヘルスプロモーション」

炭酸ガスレーザーは臨床的には幅広い用途に使用されているが、その作用機序の詳細については不明な点が多い。本研究の目的は、炭酸ガスレーザーが創傷治癒において必要な細胞を活性化させ、病態をより早く常態に戻すメカニズムを検索することであり、炭酸ガスレーザーの新たな療法を開発することである。本研究では炭酸ガスレーザーの作用機序として、細胞、組織における創傷治癒に関わる因子の発現、局在を検索することにより、炭酸ガスレーザー治療の有用性を証明し、またLow reactive Level Laser Therapy(LLLT)の効果 を最大限に引き出す新たなモードを検討することで、炭酸ガスレーザーが患者のオーラルヘルスプロモーションの一助となると考える。

盧 靖文(若手研究B)

### 「Syndecan-1の消失は口腔癌の悪性度と関係しているか？」

Syndecan-1はsyndecan familyに属する膜貫通型ヘパラン硫酸プロテオグリカン(HSPG)であり1型膜タンパクに属する接着分子である。syndecanを構成しているHSPGは細胞の分化と増殖の制御に深く関わっており、悪性腫瘍における発現に関して、頭頸部領域においてはsyndecan-1は上皮が悪性に転換する時期に減少するという報告や外科療法や放射線療法を施行後の予後因子として使用可能という報告もある。

過去に舌扁平上皮癌におけるsyndecan-1の発現、局在を免疫組織化学的に検索し、syndecan-1の消失パターンと分化度、浸潤様式、リンパ節転移との相関を研究してきた。その結果、発現の消失と分化度や浸潤様式との間に相関関係が認められ、syndecan-1は舌扁平上皮癌の悪性度の指標として利用できることを解明した。しかしながら、これまでの検索ではsyndecan-1の消失が癌細胞自体にどのような影響をあたえているのか不明であった。そこで、口腔扁平上皮癌由来の培養細胞に対して強制的にsyndecan-1の発現を抑制させ、悪性度を示す増殖能、細胞運動能や浸潤能を検索を行い、悪性腫瘍マーカーの1つとして使用可能かどうか研究を行っている。

杉戸 博記(若手研究B)

### 「発生からみた歯周組織再生メカニズムの解明」

歯を含めた歯周組織発生におけるCCNファミリーの役割

近年、様々な歯周組織再生療法が臨床的に行われている中、正常な歯周組織構造に類似した組織像を示す療法の開発が望まれている。そのような観点から、本研究は、その第一段階として、歯周組織の発生からみた歯周組織再生メカニズムの解明を目的としている。

歯を含めた歯周組織の発生は、上皮-間葉相互作用によって進行することが知られている。そこで、上皮-間葉相互作用により調節される組織の初期形成に重要な役割を果たすことが報告されているCCNファミリーが、歯を含めた正常な歯周組織発生過程にどのように関与しているかを明らかにし、このファミリーが歯周組織再生のキーファクターとなりうるか否かを検索する。

丸山 澄(若手研究B)

### 「高度変性資料に対応可能なDNA多型を用いた法歯学的個人の識別」

近年個人識別にDNA検査を用いるケースが非常に増えているが、状態が悪く微量な資料であることが多い。また近年の国際化の影響から対象者が日本人か否かを知る必要がある。そこでこれらの条件に非常に有用と思われるミトコンドリアDNAを用い、個人識別および人種推定への実用を目指す。本研究は日本人のmtDNA全領域を検査し、個人識別における日本人のデータベースを確立する。その結果からアジア人集団との識別を行うためより詳細な系統樹を作成する。また変性資料として歯牙を用い最も有効な増幅領域の選択システムを確立する。本研究によりmtDNA多型の識別能力がさらに上昇し、地理的由来の推測にもかなり実用的で精度の高い情報が得られる。

渡邊 裕(若手研究B)

### 「視覚・聴覚刺激を用いた痴呆高齢者の誤嚥性肺炎予防に関する研究」

重度の要介護者や認知症患者は、嚥下訓練の指示に従うことが難しいため、摂食・嚥下機能の治療、回復が困難とされてきた。一方運動に関連した視覚・聴覚刺激によりその運動を誘発できると

いう研究報告があり、これを摂食・嚥下障害患者へのリハビリテーションに応用できないかと考えた。そこで摂食・嚥下運動に関連した視覚・聴覚刺激時の脳活動をfMRIとMEGを用いて検証する。さらにこれらの刺激を介護施設等で実際に用い

て、摂食の改善や誤嚥性肺炎の予防等に効果があるか検討する。これにより摂食・嚥下障害に対する最も安全で効果的なりハビリテーションの手法として、この視覚・聴覚刺激を位置づけることを目的としている。

### 平成17年度科学研究費補助金研究者別交付一覧

研究種目	研究代表者氏名	17年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)		研究課題
			直接経費	間接経費	
基盤研究(A) 一般	井上 孝 教授		3,000	900	Tissue engineeringにより作られたハニカム構造を持つ人工歯根膜
基盤研究(B) 一般	奥田 克爾 教授		2,000		歯周病原菌はapoEノックアウトマウスの動脈硬化誘発性サイトカイン産生を起こすか
基盤研究(B) 一般	松久保 隆 教授		2,900		咬合咀嚼機能と聴力との関連性に関する臨床疫学ならびに聴覚野応答解析
基盤研究(B) 一般	小田 豊 教授		1,900		歯科用チタン合金のEQCA (マイクロバランス) による腐食・変色評価
基盤研究(B) 一般	榛村 重人 客員講師		6,400		低酸素培養による角膜幹細胞の分離
基盤研究(B) 一般	水口 清 教授		3,600		DNA多型を用いた法歯学的個人識別検査法の適用範囲の拡大と検査法の転換
基盤研究(C) 一般	加藤 哲男 助教授		800		免疫系をかく乱する歯周病原細菌病原因子とそれを防御する唾液タンパク質の解析
基盤研究(C) 一般	見明 康雄 助教授		800		唾液による歯牙硬組織石灰化度の恒常性維持に関する研究
基盤研究(C) 一般	木崎 治俊 教授		700		AMP活性化キナーゼによるTリンパ球のアポトーシスの回避・始動の制御機構
基盤研究(C) 一般	吉成 正雄 助教授		1,100		Bisphosphonateの局所投与によるインプラント周囲骨の改善
基盤研究(C) 一般	高野 正行 助教授		800		唾液中カンジダマンナン抗原測定による口腔カンジダ関連疾患の診断法開発
基盤研究(C) 一般	坂井 隆之 講師		500		アポトーシス抵抗性口腔扁平上皮癌細胞のサバイバルメカニズムとその克服に関する検討
基盤研究(C) 一般	茂木 悦子 助教授		500		超音波による骨密度計測値を用いた10歳代から80歳代までの骨年齢表示
基盤研究(C) 一般	杉原 直樹 講師		700		成人および高齢者の歯科疾患の発病と歯の喪失リスクに関する疫学的研究
基盤研究(C) 一般	岡田 聡 講師		1,900		多発性筋炎の筋繊維障害機序におけるgranulysinの重要性について
基盤研究(C) 一般	石原 和幸 助教授		1,000		歯周病原性細菌バイオフィーム形成における共凝集の役割とその病原性
基盤研究(C) 一般	高橋 慎一 教授		100		歯科用金属パッチテストの紅斑指数と角質水分量による客観的評価
基盤研究(C) 一般	花岡 洋一 助教授		700		手指による汚染は歯科補綴物をDNA源とした個人識別にどれだけの影響を及ぼすか
基盤研究(C) 一般	東 俊文 講師		1,800		組織幹細胞を用いた肝不全療法開発のための基礎的研究
基盤研究(C) 一般	安藤 暢敏 教授		1,600		ティッシュエンジニアリングを応用した組織再構築型人工食道の開発
基盤研究(C) 一般	兼子 智 講師		2,200		ICSIにおけるヒト精子の質的保証 - DNA2重鎖切断、片側開裂を有する精子の排除
基盤研究(C) 一般	佐藤 裕 助教授		1,200		もう一つのヒトウ蝕原因菌で遅れている遺伝子機能解明への一つのアプローチ
基盤研究(C) 一般	村松 敬 講師		1,600		遺伝子解析ならびにプロテオミクスによる出生前の歯乳頭に潜在する歯牙形成機構の解明
基盤研究(C) 一般	櫻井 薫 教授		2,200		咀嚼によってストレスが緩和する
基盤研究(C) 一般	河田 英司 助教授		1,500		生活歯漂白はエナメル質表層のみの白濁化では達成できない
基盤研究(C) 一般	杉山 哲也 講師		2,000		高齢者の口腔衛生状態を向上させる二酸化チタン薄膜加工義歯床の検討
基盤研究(C) 一般	三宅菜穂子 助手		1,800		ゼータ電位による補綴材料およびアバタイト表面への唾液タンパク吸着性と吸着防止評価
基盤研究(C) 一般	内山 健志 教授		2,000		日本人下顎前突症患者における候補遺伝子の解析

研究種目	研究代表者氏名	17年度 新規 採択者	交付決定額 単位(千円)		研究課題
			直接経費	間接経費	
基盤研究(C) 一般	高木多加志 助教授		2,700		顎変形症患者の硬組織と軟組織の三次元形態分析に関する研究
基盤研究(C) 一般	伊藤 明代 助手		1,600		歯周治療におけるバイオフィルム駆逐ストラテジー
萌芽研究	井上 孝 教授		1,000		Difensin遺伝子導入による歯周病に罹患し難い生体を作るプロジェクト
萌芽研究	水口 清 教授		1,100		法医学的個人識別におけるDNA多型を用いた日本人と近縁集団との識別
萌芽研究	阿部 伸一 助教授		800		バイオマーカーによって特定された口腔癌周囲組織の機能異常を探るプロジェクト
萌芽研究	宮内 潤 教授		2,000		ダウン症児における一過性骨髄増殖症の自然治癒の機序に関する細胞生物学的研究
萌芽研究	川口 充 教授		2,100		個体レベルの唾液腺機能解析の為にsiRNAと超音波を応用した遺伝子抑制法の開発
萌芽研究	佐野 司 教授		2,000		F L A I R法MR画像による顎関節滑膜炎の病態診断プロジェクト
若手研究(B)	松坂 賢一 助教授		500		ナノ制御されたマイクロ表面構造インプラント
若手研究(B)	服部 雅之 講師		700		添加元素による歯科鑄造用チタン銅合金の物性改良
若手研究(B)	笠原 清弘 助手		100		口腔外科手術におけるSIRSの発現に関する研究 特に術後合併症との関連について
若手研究(B)	宮田 量平 助手		900		HB s 抗原粒子をベクターとしたヒト肝細胞に対する遺伝子治療の開発
若手研究(B)	君塚 隆太 助手		1,800		歯周病原性 <i>Treponema denticola</i> 血管内皮細胞侵入機構の解析
若手研究(B)	遠藤 隆行 講師		500		自律神経機能統合最高中枢である脳幹弧束核細胞のグルタミン酸受容機構
若手研究(B)	木津 康博 助手		600		頭蓋顔面におけるZygomatous fixtureの生体力学的検討
若手研究(B)	岡崎雄一郎 助手		600		口腔上皮性異形成の癌化過程における発癌遺伝子について
若手研究(B)	高田 篤史 助手		1,500		DTHマウスモデルでの口腔粘膜局所のランゲルハンス細胞における共刺激分子の役割
若手研究(B)	武田 栄三 助手		600		脳磁場計測による大脳皮質味覚野の特定と味覚障害に対する他覚的客観的評価法の確立
若手研究(B)	松浦由美子 助手		500		心拍出量の連続的モニタリングによる歯科外来患者の治療中の安全性の向上
若手研究(B)	佐竹 良之 助手		1,300		再生表皮層膜移植片の性状およびバリアフリー機能解析
若手研究(B)	田 聖花 助手		1,200		非侵襲ムチン定量による眼表面評価法の確立
若手研究(B)	嶋 香織 講師		1,100		唾液腺腫瘍構成細胞の分化におけるアクアポリンの関与について
若手研究(B)	天谷 哲也 助手		1,100		2波長発振レーザー照射後の組織は、どのような治癒形態をたどるのか？
若手研究(B)	石崎 憲 講師		400		義歯床による機械刺激は上皮内機械受容細胞の形態を変化させるか？
若手研究(B)	高木 一郎 助手		1,800		頬粘膜圧痕の形成因子についての検索
若手研究(B)	武本 真治 助手		1,800		生体分子修飾によりチタンは防食可能か？
若手研究(B)	野村 武史 助手		2,200		ヒト口腔癌の顎骨浸潤に関わる分子標的因子の解明
若手研究(B)	半田 俊之 助手		700		アデノシン三リン酸の鎮痛作用と抗炎症作用を利用した新しい術後疼痛管理
若手研究(B)	古谷 義隆 病院助手		1,500		吸収性プレートをを用いた顎骨欠損部での新しい骨延長法の開発
若手研究(B)	山本 信治 助手		1,800		口腔癌における循環血清free DNA (腫瘍) の検出とその臨床応用に関する研究
若手研究(B)	村上 聡 病院助手		1,200		炭酸ガス (CO <sub>2</sub> ) レーザーによるオーラルヘルスプロモーション
若手研究(B)	盧 靖文 病院助手		1,100		Syndecan-1の消失は口腔癌の悪性度と関係しているか？
若手研究(B)	杉戸 博記 講師		1,900		発生からみた歯周組織再生メカニズムの解明
若手研究(B)	丸山 澄 助手		1,200		高度変性資料に対応可能なDNA多型を用いた法医学的個人の識別
若手研究(B)	渡邊 裕 助手		2,100		視覚・聴覚刺激を用いた痴呆高齢者の誤嚥性肺炎予防に関する研究

# 人物往来

## 国内見学者来校

### 千葉校舎・千葉病院

千葉医療福祉専門学校(学生73名、教員2名)  
平成17年8月3日(水)4日(木)5日(金)解剖学教室、他見学  
つくば歯科衛生専門学校(学生46名、教員2名)  
平成17年9月13日(火)解剖学教室、病院、他見学  
茨城歯科専門学校(学生55名、教員2名)  
平成17年9月14日(水)解剖学教室、病院、他見学  
旭川歯科学院専門学校(学生49名、教員3名)  
平成17年9月21日(水)解剖学標本室、病院、他見学  
東京医療専門学校(学生35名、教員1名)  
平成17年9月26日(月)27日(火)28日(水)29日(木)解剖学教室他見学  
東京歯科衛生専門学校(学生89名、教員3名)  
平成17年9月30日(金)解剖学教室、病院、他見学

### 海外出張

武田宇央病院助手(市病・オーラルメディスン・口腔外科)

University of Alberta / Cross Cancer Institute Department of Oncologyへの留学において、カリキュラムの打合せおよび当施設見学のため、8月16日(火)から26日(金)までカナダ・エドモントンへ出張

片田英憲助手(歯科矯正)

有限要素法による矯正治療メカニクスの臨床応用に関する共同研究とUSCにおけるPBLカリキュラム・卒後研修など教育システムの習得のため、アメリカ・ロサンゼルス、南カリフォルニア大学へ8月18日(木)に出発。帰国は平成18年8月17日(木)の予定。

下野正基教授(病理)

第93回FDI年次世界歯科大会に、日本歯科医師会代表団代表、ならびにFDI大会教育委員として出席、British Columbia大学における共同研究打合せのため、8月20日(土)から31日(水)までカナダ・モントリオール、バンクーバーへ出張。

米津卓郎講師(小児歯科)

アイオワ大学歯学部予防歯科学講座および歯科矯正学講座との共同研究に従事するため、8月20日(土)から9月4日(日)までアメリカ・アイオワシティへ出張。

石上恵一教授、武田友孝助教授、秋場岳史病院助手、若野新八大学院生(スポーツ歯学)第93回FDI年次世界歯科大会で発表、およびISDST 4th international symposium on sport dentistry and dental traumaにおいて、石上教授はシンポジストとして、武田助教授は発表のため、秋場病院助手、若野大学院生は参加のため、8月21日(日)から石上教授、秋場病院助手は、28日(日)まで、武田助教授、若野大学院生は、29日(月)までカナダ・モントリオールへ出張。

鈴木道子助手(水病・口腔健康臨床科学)

ITI Research Group Follow-up Seminar 2005 in Koreaに参加のため、8月21日(日)から25日(木)まで韓国・仁川へ出張。

小澤靖弘講師(市病・オーラルメディスン・口腔外科)

口腔・顎顔面の欠損に対する再建法の習得とその基礎的研究のため、ドイツ・フライブルグへ8月25日(木)に出発。帰国は平成18年8月24日(木)の予定。

内山健志教授(口腔外科)

17th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery (第17回国際口腔外科学会)に出席、および各国口腔外科教授と意見交換のため、8月26日(金)から9月4日(日)までオーストリア・ウィーンへ出張。

高野正行助教授(水病・口腔健康臨床科学)

17th International Conference on Oral and Maxillofacial Surgery (第17回国際口腔外科学会)で発表、および各国口腔外科教授と意見交換のため、8月28日(日)から9月4日(日)までオーストリア・ウィーンへ出張。

薬師寺仁教授(副学長)

第四軍医大学口腔医学院との姉妹校協定締結、ならびに同学院70周年式典・祝賀会に出席、および北京首都医科大学にて講演のため、8月28日(日)から9月4日(日)まで中国・西安、北

京へ出張。

奥田克爾教授(微生物)、柴原孝彦教授、野村武史  
助手(口腔外科)

熱帯地域口腔保健第一回国際会議で発表のため、8月29日(金)から9月4日(日)まで、イギリス・ドーセットへ出張。

井上 裕理事長、金子 讓学長、町田幸雄名誉教授、上野雅司課長(法人庶務課)

第四軍医大学口腔医学院との姉妹校協定締結、ならびに同学院70周年式典・祝賀会に出席のため、9月1日(木)から4日(日)まで中国・西安へ出張。

穴澤卯圭助手(市病・整形外科)

13th International Symposium on Limb Salvageで発表のため、9月7日(水)から11日(日)まで韓国・ソウルへ出張。

宮崎晴代講師(水病・口腔健康臨床科学)

6th International Orthodontic Congressにて発表のため、9月9日(金)から16日(金)までフランス・パリへ出張。

笠原啓史助手(市病・心臓血管外科)

ベルギー-OLV病院での心臓内視鏡手術の研修、視察、ウィーン大学病院での心不全に対する左室形成術の手術研修、および視察のため、9月10日(土)から19日(月)までベルギー・アレスト、オーストリア・ウィーンへ出張。

ピッセン弘子教授(水病・眼科)

European Society of Cataract and Refractive Surgeons(ヨーロッパ白内障・屈折矯正手術学会)で発表、およびドイツ・ゲーテ大学見学のため、9月10日(土)から18日(日)までポルトガル・リスボン、ドイツ・フランクフルトへ出張。

見明康雄助教授(口腔超微構造)

マヒドル大学歯学部微生物学講座(Dr.Srosiri Thaweboon教授)との共同研究打合せ、および歯牙硬組織研究手技の技術指導のため、9月11日(日)から14日(水)までタイ・バンコクへ出張。

松坂賢一助教授(臨床検査)

The Central European and Scandinavian Division of the International Association of Dental Researchで発表、およびオランダ Medical Center Nijmegen J.A.Jansen教授との研究打合せのため、9月14日(水)から21日(水)までオランダ・アムステルダムへ出張。

下野正基教授、村松 敬講師(病理)

Dentin/Pulp Complex Meetingに下野教授は、Scientific Committeeとして参加、発表、およびMirano大学薬理学研究所との共同研究打合せ、村松講師はシンポジストとして発表のため、下野教授は9月16日(金)から26日(月)まで、村松講師は19日(月)から25日(日)まで下野教授はドイツ・デュッセルドルフ、イタリア・ミラノへ、村松講師はドイツ・デュッセルドルフへ出張。

澁川義幸講師(生理)

Dentin/Pulp Complex Meetingで発表のため、9月16日(金)から22日(木)までドイツ・デュッセルドルフへ出張。

久保浩太郎大学院生(歯科麻酔)

Dentin/Pulp Complex Meetingで発表のため、9月16日(金)から25日(日)までドイツ・デュッセルドルフへ出張。

宮下有恒助手(補綴)

World Celebration 40years of Osseointegrationに参加のため、9月19日(月)から28日(水)までブラジル・サンパウロへ出張。

金子 讓学長

European Congress on Anesthetic Technologies in Dental PracticeにてIFDAS2006広報活動、およびモスクワ大学歯学部視察のため、9月20日(火)から24日(土)までロシア・モスクワへ出張。

佐藤 亨教授(補綴)

2005 September 23-24 FDI-MDA-HSUM Meetingでゲストスピーカーのため、9月21日(水)から26日(月)までモンゴル・ウランバートルへ出張。山本実佳助手、山本あや大学院生(歯科放射線)第39回アメリカ頭頸部放射線学会にて発表のため、9月21日(水)から26日(月)までアメリカ・サンフランシスコへ出張。

井上 孝教授(臨床検査)

レーザー研究会での学術講演、および延世大学歯学部朴学長との研究打合せのため、9月22日(木)から26日(月)まで韓国・ソウルへ出張。

榛村重人客員講師(市病・角膜センター)

ARVO Western Eye Research Conferenceで発表のため、9月24日(土)から30日(金)までアメリカ・ラゲーナへ出張。

小田 豊教授(歯科理工)  
第41回ISO/TC106ローマ会議に日本SC議長なら  
びに日本WG議長として出席のため、9月24日

(土)から10月3日(月)までイタリア・ローマへ  
出張。

## 大学日誌

### 平成17年8月

- 1(月) 第37回全日本歯科学生総合体育大会(事務主管、九州歯科大学)(~12日)  
省エネルギーの日  
防災安全自主点検日
- 2(火) 看護部運営会議(市病)
- 3(水) 平成18年度看護師採用説明会(市病)
- 4(木) 歯科衛生士専門学校第8回FDワークショップ
- 6(土) 入試ガイダンス(於:水道橋)  
第18回カリキュラム研修ワークショップ  
(~7日)
- 9(火) 院内褥瘡対策委員会(市病)
- 10(水) 平成18年度看護師採用説明会(市病)  
リスクマネージメント部会(水病)
- 15(月) 環境清掃日  
危険物・危険薬品廃棄処理日
- 17(水) 平成18年度看護師採用説明会(市病)
- 22(月) 延世大学校歯科大学との学生交流プログラム(延世大学校生来校~26日)  
機器等安全自主点検日
- 23(火) 平成18年度第1回看護師採用試験(市病)
- 24(水) 平成18年度看護師採用説明会(市病)
- 27(土) 入試ガイダンス(於:千葉校舎)
- 30(火) 歯科衛生士専門学校学校説明会
- 31(水) 1~4年生夏期休暇終了  
6年生第2回総合学力試験(1日目)  
歯科衛生士専門学校1・2年生夏期休暇終了

### 平成17年9月

- 1(木) 1・2・3・4年生授業再開  
6年生第2回総合学力試験(2日目)  
歯科衛生士専門学校1・2年生前期授業再開  
省エネルギーの日  
防災安全自主点検日  
治験審査・倫理委員会(市病)

- 3(土) 平成18年度歯科臨床研修医募集病院説明会(水病)
- 5(月) 教務部(課)事務連絡会  
医療連携委員会
- 6(火) 歯科衛生士専門学校職員会  
看護部運営会議(市病)
- 7(水) リスクマネージメント部会  
感染予防対策委員会(ICT)  
MRSA院内感染対策委員会  
臨床検査部運営委員会  
輸血療法委員会  
千葉校舎課長会  
教養科目協議会  
学生部(課)事務連絡会  
歯科衛生士専門学校臨床実習委員会  
輸血療法委員会(市病)  
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 8(木) 薬事委員会(市病)
- 9(金) 大学院事務連絡会  
麻薬立入検査(市病)  
院内褥瘡対策委員会(市病)
- 12(月) 1・2・3・4年生前期授業終了  
病院運営会議  
高度先進医療専門委員会  
医療用具治験審査委員会  
個人情報保護委員会  
医療安全管理委員会  
感染予防対策委員会(ICC)  
臨床教育委員会  
医局長会  
第16回医療安全研修会
- 13(火) 臨床教授連絡会  
全体教授会  
人事委員会  
歯科衛生士専門学校教員会
- 14(水) 基礎教授連絡会

- |   |   |
|---|---|
| <p>14 (水) 大学院運営委員会<br/>大学院研究科委員会<br/>救急委員会 (市病)<br/>感染予防対策委員会 (水病)<br/>医療安全管理委員会 (水病)<br/>リスクマネジメント部会 (水病)<br/>個人情報保護委員会 (水病)<br/>臨床検査室委員会 (水病)<br/>放射線科委員会 (水病)<br/>薬事委員会 (水病)</p> <p>15 (木) 公認会計士監査<br/>1・2・3・4年生前期定期試験 (～29日)<br/>歯科衛生士専門学校創立記念日<br/>環境清掃日<br/>危険物・危険薬品廃棄処理日<br/>医療安全管理委員会 (市病)<br/>部長会 (市病)<br/>管理診療委員会 (市病)<br/>科長会 (水病)</p> <p>16 (金) 公認会計士監査<br/>図書委員会<br/>歯科衛生士専門学校1・2年生前期授業終了</p> <p>20 (火) 第45回歯科医学教育セミナー<br/>歯科衛生士専門学校1・2年生前期試験 (～30日)</p> | <p>20 (火) 機器等安全自主点検日<br/>看護部運営会議 (市病)</p> <p>21 (水) 千葉校舎課長会<br/>情報システム管理委員会<br/>第215回大学院セミナー<br/>公認会計士監査 (水病)</p> <p>22 (木) 保険診療検討委員会 (市病)<br/>検査室委員会 (市病)<br/>全体医局会 (市病)<br/>公認会計士監査 (水病)</p> <p>24 (土) 入試ガイダンス (於：水道橋)</p> <p>26 (月) 職員研修会、公認会計士監査 (市病)</p> <p>27 (火) 薬事委員会<br/>データ管理者会議<br/>カルテ整備委員会<br/>診療記録管理委員会<br/>公認会計士監査 (市病)</p> <p>28 (水) 健康管理委員会 (水病)<br/>病院連絡協議会 (水病)<br/>院内情報システム検討委員会 (水病)</p> <p>29 (木) 第216回大学院セミナー</p> <p>30 (金) 社保委員会 (水病)</p> |
|---|---|



## 東京歯科大学広報 編集委員

松久保 隆 (委員長)

石塚順子 浦田知明 江波戸達也 王子田 啓 大塚 健 小倉 等 河田英司 北林伸康 柴家嘉明  
嶋村一郎 新谷益朗 杉原直樹 世木田 晋 高木直人 田口達夫 三木敦史 山岸 等 (平成17年10月現在)

### 編集後記

大学広報は、教職員、学生および保護者に配布されています。また、ネットワーク上ではオンライン版として大学規程、大学人事等の一部を除いて191号 (平成13年6月) よりすべて公開されています。広報誌は情報公開のためであるとともに、個人情報保護についても常に配慮した作成を行わなければなりません。委員会では十分注意しているつもりですが、もし、ご意見などありましたらご一報ください。

今後は、特色GPや現代GPの具体的内容、そして10月より開設された歯科医学教育開発センターなどの新たな取り組みについてお伝えしたいと考えております。

写真は、教養棟入口右に咲くムクゲ「無窮花」です。209号でこの花について紹介しましたが、本号発行前に写真をとることができましたので掲載いたしました。(大学広報部長：松久保 隆)

